

日本版 DMO 候補法人登録記念シンポジウム

平成 29 年 10 月 22 日(日)

主催 公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団

司会 大変お待たせしました。ただ今より、日本版 DMO 候補法人登録記念シンポジウムを開催します。私は司会進行を務めさせていただきます神野文子と申します。皆様、よろしくお願い申し上げます。（拍手）

本日のシンポジウムのテーマは「大自然の中の都市公園宮ヶ瀬～子供の環境学習の場の創生や水源地域の永続的な活性化に向けて～」となっております。

まず、はじめに、主催者であります公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団理事長和田久より、ご挨拶申し上げます。お願いします。（拍手）

和田 ただ今、ご紹介いただきました公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団理事長の和田でございます。今日は、あいにく台風が近づいている大変な天気の中で、このように大勢の方にお運びいただきまして、まずもってありがとうございます。また、本日の開催に至りますまで、ご支援・ご協力いただきました各団体、個人の方々、併せてお礼を申し上げたいと思います。

このところ、冷たい雨が続いていまして、何か雨ばかりが降っているような感じがいたしますが、実は相模川水系、神奈川県は今年の夏は、水が少なかったですね。宮ヶ瀬ダムにおいても始まって以来の水位の低下で、ちょうど遊覧船などが忙しい時期の 7 月 22 日から約 2 カ月間、浮き桟橋まで階段が届かないということで遊覧船を運休させていただくような状況でございました。

宮ヶ瀬ダム始まって以来の水位の低下というような状況でしたが、どうですか、県民の皆さん、水が飲めなかったとか企業活動が滞ったということはなかったのではないかと思います。これはやはり、宮ヶ瀬ダムができて全体の器が大きくなっている中で、水が少ないとは言っても全体の水源が確保されていることで、宮ヶ瀬ダムを先輩の方々にお作りいただいたその成果が、今年のような年には出ているものと思っています。

今日は、宮ヶ瀬ダムの整備、あるいはその周辺の園地の整備に当たりまして、当時、建設省のダム建設事務所長の竹村公太郎先生にその辺のお気持ちや経緯なども含めて貴重なお話を頂戴できるということでもあります。非常に楽しみにしているところでありますし、私も神奈川県民も、宮ヶ瀬ダムがあって、いろいろな形で経済活動、社会活動が成り立っているところを、じっくり考える機会になるだろうと思っています。

また一方で、このところ、ダムカレーやダムカード、あるいはダムマニアという言葉が頻繁に聞くようになったかと思いますが、宮ヶ瀬ダムにおきましても、ダム放流カレーが

非常な人気で、大行列ができて売り切れになっている状況にあります。また、インフラツーリズムという中で、工場の夜景やダムや地下下水道の施設といったものが観光の要素として出てきているという様相がありまして、おかげさまで観光放流の日などは私どもの施設もかなり賑わっているというような状況でございます。

ただ、先ほど少し話が出ましたように、宮ヶ瀬ダムの特殊性は、その草創期の段階から、ダムだけではなく周辺の園地やあるいは水没した地域の再生・活性化ということで、水源地域を保全しながら地域が成り立つような形で、あるいは観光の拠点としてもシンボルとなるような形で考えていただいた、その主体として「宮ヶ瀬ダム周辺振興財団」もお作りいただいたということでもあります。

私どもの財団は、私で 8 代目の理事長になりますが、設立されましたのが平成 4 年 10 月 1 日でありまして、ちょうど今月で 25 年を迎えます。25 年ということは、当時 25 年前、30 年前の先輩の方々がちょうど今日のような姿をイメージして、そういう仕事をやりなさいということで財団を作り、また地域の方たちが連携をして取り組んできたところです。私どもとすれば、これが通常の宮ヶ瀬ダムの姿なのですが、このところ一方で、今日のテーマになっている日本版 DMO。これが何かというと、このあと話が出てくると思いますが、地域で垣根を越えて、官民の垣根、市町村の垣根を越えて皆で横断的に扇の要になるような法人を作って取り組みなさいといった仕組みなのですが、今年の 5 月に私どもの財団が「日本版 DMO 指定候補法人」として国の観光庁に登録いただきました。

しかしながら、先ほど申し上げたように、もともと宮ヶ瀬周辺の振興は、愛川、清川、旧・津久井地域、厚木の北部などが垣根を越えて取り組んできたところです。私どもの財団も県や市町村はもとより、交通関係や企業など、18 もの団体が出捐をして作っている団体であります。もともと、行政の境を越えて、あるいは官民の垣根を越えて、宮ヶ瀬全体の自然環境の保全と活性化を図っていかうではないかという狙いでやってきた 25 年であつたろうと思っています。

その意味では、いまさら日本版 DMO と言われなくても、もともと宮ヶ瀬ダム周辺の人たちは、皆で力を合わせて取り組んできたのではないかと考えていますが、5 月に指定もされましたので、ちょうど、国で日本版 DMO が始まるこの機会に、より一段飛躍することも含めまして、本日は、今後の向かうべき方向性、あるいは、これまでの課題等も含めて幅広くご議論いただいて、実りあるシンポジウムになることを期待をいたしまして、開会のご挨拶に代えさせていただきます。

どうぞ皆さん、よろしくお願ひします。（拍手）

司会 ありがとうございます。

今日のシンポジウムの開催にあたりまして、関係者の皆様からメッセージも、多数、頂戴いたしております。しかし、お時間の関係でご披露は割愛させていただきます。

それでは、基調講演にまいります。タイトルは、「宮ヶ瀬ダム観光計画の誕生秘話」。講師にお迎えいたしましたのは、NPO 日本水フォーラム代表理事竹村公太郎先生です。

竹村先生の簡単なプロフィールをご紹介します。先生は、神奈川県ご出身で、1985年から1988年まで3年8カ月、宮ヶ瀬ダム工事事務所長を務められ、その後、中部地方建設局河川部長、近畿地方建設局長を経て、国土交通省河川局長。2002年に退官後、2004年に財団法人リバーフロント整備センター理事長、2006年5月より、特定非営利活動法人日本水フォーラム代表理事・事務局長を務められています。

著書は『日本文明の謎を解く』『水力発電が日本を救う』など、多数でございます。

先生は、宮ヶ瀬ダム周辺振興財団、および宮ヶ瀬湖周辺整備構想の発案者であり、今回の記念シンポジウムの基調講演を引き受けていただきました。

それでは、竹村先生、よろしくお願ひいたします。（拍手）

竹村 ご紹介いただきました竹村です。風邪をひいて声がかれていますが、お許しください。

今、私のご紹介がありましたが、私は宮ヶ瀬ダムの所長になったとき、どういう状況かと言うと、観光をやっていた水没者の方々が補償が終わって代替地へ移ったときで、ダムは全くありません。影も形もないわけです。前の所長に言われたのは、まず「ダムを設計し、ダムの本体を発注しろ」と。もう一つは、「今は何もないけど、この水源地域にいた方々の生活再建を今からやれ」と。観光を中心とした生活再建です。非常に難しいテーマを与えられまして、それを4年ちょっと、事務所長としては大変長い期間やらせいただき、ダム本体の設計と発注をしました。その経緯をお話するのが今日のテーマです。

宮ヶ瀬ダムの観光の話をするのですが、一番ベースは宮ヶ瀬ダムの必要性ですから、それを簡単に言います。なぜ、横浜が明治の開国のとき玄関になったのか。これは意外と知られていないんですよ。これは実は400年前の関ヶ原にもつながります。関ヶ原で徳川家康が勝ち、家康はこの関東、江戸に来ます。

江戸は、今はこういう地形ですが当時は全然違う地形だったのです。これが 6000 年前の縄文年間の関東です。海面が 5m 高かったんです。これが定説です。海面をたった 5m 高くすると関東平野がなくなってしまいます。

家康が江戸に入ったときは、もちろん海面は下がっていました。下がっていてどういう状況かと言うと、このように、利根川、荒川、多摩川、鶴見川、全ての川がこの東京湾に流れ込んでいました。

なぜ、江戸は利根川が流れているかという話ですが、利根川はここですが、台地にぶつかって銚子には流れません。この利根川の故郷は東京湾。銚子ではないんです。ではなぜ今利根川がこっちへ流れているかと言うと、ここを切った人間がいます。徳川家康です。家康がここを切ったおかげで利根川はこっちへ流れていて、ここが乾田化していくんです。

徳川家康がこの関東に入ってきたときには、関東一面が、昔、海だったところに全ての川の泥が堆積していた状態です。一面の湿地帯です。これが縄文の時代の貝塚の分布図ですが、関東一円が海、干潟だったということがこれで分かると思います。

これではイメージがわからないので、徳川家康が当時の江戸城から見た関東平野の湿原をお見せします。こうなっています。もちろん、これは関東平野ではありません。フランスのランス川河口で、手前にあるのが有名な修道院、モン・サン・ミシェルです。このように見渡す限り干潟だったんです。ですから、目の前は不毛の湿地帯だったんです。

では裏の台地はどうかと言うと、この江戸城から見た目の前が湿地帯、裏の武蔵野台地は使い物になりません。なぜなら、川がないから。だから、中央線で立川、高尾まで行っても延々と平べったい台地が続くだけで、今は住宅街だらけですね。なぜああいう住宅街になれたかと言うと、近代まで何も開発されていなかったからです。つまり、徳川家康が江戸城に入ったときには、不毛の目の前の大干潟と背後の全く役立たずの武蔵野台地が広がっていたんです。

徳川家康は何をしたかと言うと、しょうがないから、唯一、多摩川の周辺だけは開発できたので、それで彼は多摩川の開発をします。多摩川の堰を作り、そしてその堰から主に川崎に二ヶ領用水、世田谷のほうには 2 つの用水で四ヶ領用水とも言いますが、川崎の周辺を、水を引くことによって、唯一、開発していくんです。

1597 年、1611 年という年号を見てください。関ヶ原を挟んでいます。つまり、徳川家康が江戸に入れられて、そして、この不毛の関東平野で、唯一、希望があったのがこの多摩川の周辺だけだったんです。

さて、徳川家康が江戸に進みました。すると江戸が発展してきます。東海道ができます。東海道、この当時のルートを見ますと、東海道から来た人は、平塚から、神奈川から、川崎から江戸に向かう。そして、海から来た人たちは、下総、千葉の先端の港に入り、その陸路を渡って北へ行く。または鹿島港から北へ行く。利根川の上流から中山道を来た人たちは利根川の上流で浅いところを渡って北へ行く。これが当時の主要な廻船ですが、よく見ると横浜は、外れているんです。

だから、横浜は、大昔からの江戸時代も街道から、外れたところだったんですね。だから、明治になってなぜ横浜かと言うと、まず大きな河川がありません。大岡川みたいなチンケな川しかありません。私も弘明寺の大岡でずっと育ちましたので、決してチンケというは非難しているのではなくて、自分の故郷を言っているのですが、大きな川がないのです。そして、東京に近い岸壁海岸。これは大事です。岸壁海岸じゃないと港になりません。干潟があつたら全然駄目ですから、東京湾の奥深い東京に近いところは港にならない。なるべく東京に近い岩場海岸。もう一つ大事なことは、歴史がないこと。

歴史があると、そこは、長い間そこに住んでいる方々が反対するんです。あんな髪の毛が赤い、訳の分からない西欧人が来たらいやだと反対されたのが東神奈川です。最初は、あそこが候補地だったけれども、あそこから放り出されて横浜へ行くわけです。つまり、横浜というのは、大きな川がない、東京に近い岩場だった、歴史がない、こういうことが重なって、横浜が玄関口だということになっていくわけです。

この横浜の苦しみは何かと言えば、水がないことです。しょうがないから、ヘンリー・スペンサー・パーマーが明治 18 年から 20 年にかけて、延長 48km のこの水道の水管を作ったわけです。私も小学校で学んだ副読本では、横浜の英雄はヘンリー・スペンサー・パーマーです。ほかの土地へ行くと英雄がいっぱいいます。奈良時代の英雄、平安時代の英雄、戦国時代、江戸時代、明治の英雄。ところが横浜だけは、ヘンリー・スペンサー・パーマーから始まるんです。ほかに英雄がいません。つまり、それほど新しい町なんです。

この赤い線が津久井のほうからずっと持っていったヘンリー・スペンサー・パーマーのルートです。今ではダムがありますが、当時は何もなかったです。津久井のあそこの道志川から延々と水を持っていった。なぜ延々とこんな遠くまで行ったのかちょっと不思議なのですが、これから横浜水道の誕生の謎が出てきます。

このヘンリー・スペンサー・パーマーが作ったのは明治 20 年です。ところが、横浜開港が 1859 年、これは間違いないです。どんどん、船が来ます。本当にどんどん来たんで

す。つまり、横浜開港の 1859 年から横浜水道の 1885 年の 28 年間の空白があるんです。この水のない横浜です。あり得ないです。

港が来て大きな船が泊まって、そこにきれいな水を供給するのは絶対条件ですから、国を挙げて、それは供給しなければいけない。どうしたのか。実はこれは、横浜水道の歴史でも神奈川県の水道史でもあまり書いてないですね。私も神奈川県の水道の歴史を見たのですが、1 行ぐらい書いてあります。横浜の最初の水道は、川崎用水の二ヶ領用水だと書いてあります。横浜は、川崎の二ヶ領用水から「もらい水」をしたんです。

これは皆様方、水をやっていると分かるのですが、水をもらうというのは本当に悲惨なことです。平身低頭、金も積んで、お土産も積んで、飲み食いさせて相手の股ぐらをはいずって歩いて、そこまでしないと馬鹿にして、なんで訳の分からないおまえたちに、俺たちの大事な大事な天領の、徳川様の天領だ、川崎の農家はそう威張っていました。司馬遼太郎が言っていますが、彼の言い方では、「おれんちは徳川直参の百姓だ」と言っています。それほど権威の高い、威張っていた川崎からもらい水をしたんです。

そのときの神奈川県や横浜市の行政の人たちの苦しみは、途方もない苦しみでした。私は水をやっていますので、もらい水というのはそういうことだと思います。要は、誰も神奈川県を助けてくれないんです。これは、はっきりしています。

このさっきの図面を見て、ここに芦ノ湖があります。確かに神奈川県は芦ノ湖を持っていて、芦ノ湖を上手に使ったらいいなと思います。あれは自然のダムですから。しかし、芦ノ湖の水を神奈川県は 1 滴も使えません。洪水のときだけこっちへ来ます。神奈川県は湖なのですが、芦ノ湖の水は 1 滴も神奈川県は使えないんです。なぜなら、江戸時代に芦ノ湖から静岡のほうに箱根用水が引かれたからです。

つまり、江戸時代、徳川家康出身の静岡へ水を供給することが大優先であり、明治になって慌てて欲しいと言ってもそうはいかない、ということで、21 世紀の現在までも神奈川県は 1 滴も芦ノ湖から使えないんです。

神奈川県は誰にも助けてもらえない。静岡という、徳川家のご本尊の出身地と、徳川幕府の江戸に挟まった神奈川県は、孤立無援の行政区画だったのです。

神奈川県の人たちは懸命に、自分たちの力でダムを作りました。相模ダム、城山ダム、三保ダム。県が自分たちの力で作ったんです。直轄の国が作ったのではなくて、お手伝いはしましたが、基本的に自分たちの力で作ったんです。

これは昭和 40 年ごろです。宮ヶ瀬ダムはこのころに計画されました。そんなに古い計

画なのかと驚くでしょう。この頃の行政の担当官の気持ちがよく分かります。どんどん人口が増えているんです。一体どうしたらいいのか。もう今さら多摩川の水をくれとは口が裂けても言えない。なおかつ、絶対くれない。あの憎たらしい川崎、もう二度と、はいつくばるのはいやだ。もっと作ろうということなんですが、もうダムに適地はなくなってしまったんです。

ここで、世にも珍しいダム計画が開始されます。昭和 40 年から 45 年にかけて。私の先輩たちが計画しました。

厚木があって、相模川があって、中津川があります。城山ダムは、もうありましたね。これは城山ダムの大きさを表しています。この黒いものは「流域」と言って、雨が降ったら集まってくるエリアです。城山ダムの流域は大きいです。山梨まで入っています。だから雨が降ると、どんどん水が集まってここに入ってきます。

この南側に中津川というのがあります。この中津川は流域がとても小さくて 100km² しかない。これの 20 分の 1 ぐらいと、とても小さいです。でも、この中津川のところにダムを作るだけの適地はあったんです。流域はものすごく小さいけれど、大きいダムだけにはできたんです。でも、ダムだけ作っても意味がありません。水が貯まらないのでは、しょうがないです。水の貯まらないダムを作ってもそれは税金の無駄遣いですから、あり得ません。

何を考えたか。こんなことを考えました。城山ダムの流域は、道志川も含めてものすごく大きいので、城山ダムは貯めきれない。だから、貯めきれないときに、この城山ダムの流域の水を宮ヶ瀬に持ってきて、ここで貯めておく。おなかを借りてしまう。つまり、宮ヶ瀬ダムというのは、単独のダムではないんです。城山ダムの子分なんです。図体がでかいだけで、基本的な考え方は、この城山ダムの弟分なんです。

ここに貯めたものをどうするかと言うと、宮ヶ瀬ダムの下からもう一度城山ダムへ返してやります。こんなダム計画は日本で唯一、ここだけです。世界でもあまりないのではないかな。こんな強烈な、よそ様のおなかを借りて貯めておくもの。世界にあるかどうか調べきれっていませんが、僕は聞いたことがないです。

こうやって、相模、城山、三保、そして宮ヶ瀬という神奈川県の大 4 ダムが勢ぞろいするわけです。

これは新聞記事です。利根川は年がら年中渇水をやっています。「神奈川県を除く首都圏」がいつも（渇水を）やっているんです。神奈川県を除く首都圏が節水に入ります。今

年は、ここに湖底が見えて大渇水になった。大渇水になるということは、何十年に 1 回の大渇水でも耐えたということなんです。湖の下のほうが見えたということは、何十年に 1 回来るであろう大渇水でも耐え抜いてしまったということです。

ですから、この宮ヶ瀬ダムがすごい効果を發揮している。つまり、完成して初めてということは、もう 20 年たったとしたら、20 年に 1 回の大渇水でも耐えてしまったということが言えます。

さて、勝手に私の紹介をしますと、私は昭和 45 年に建設省に入り、鬼怒川の川治ダム、次が会津若松の大川ダム、土研のダム計画官をやり、そして昭和 60 年から平成元年まで宮ヶ瀬の所長をやりました。そのあと河川局に行って開発課長をやり、そして河川局長です。つまり、私の人生の 25 年はダム関係でした。

昭和 60 年 1 月に私は宮ヶ瀬ダムの所長になるのですが、その直前の 59 年の 12 月に私は変な経験をしました。河川局の補佐のとき、お前はアメリカに行ってこいというのでアメリカに遣らされます。昭和 58 年、59 年、アメリカのニューオリンズで国際河川博覧会がありました。これは、河川局としても初めてのケースで訳が分からないから、訳が分からないものは竹村が得意だろうというので私が派遣されました。

それが無事に終わって 59 年 12 月に帰国するのですが、ニューオリンズ国際河川博覧会と 12 月帰国までに空白があります。ここであるところに寄ったんです。帰りがけに初めて、アメリカ国内観光をしました。それで寄った場所はフーバーダムです。僕の憧れのフーバーダムです。これは 1936 年に完成しています。

1936 年というと、戦前ですよ。第二次世界大戦以前にアメリカで完成している巨大なアーチダムです。高さが 221m、貯留量が 334 億トン。めちゃくちゃでかいですね。これをどうしても僕は見たかったんです。それは、私が建設省に入って最初に行ったのが川治ダムと言いましたね。このアーチダムを私は設計したんです。設計したテキストは全部、フーバーダムでした。このフーバーダムの残っていた記録をそのまま使わせてもらってこのアーチダムを建設したんです。だから当然、このふるさとのアーチダムへ行こうよと。

本当にショックを受けました。心からショックを受けました。俺は今まで何をやってたんだらうと。これは川治、こちらがフーバーダムです。違いは何か。これは洪水調節の装置でフーバーダムの役目とは違うので、こことここはちょっと無視してください。フーバーダムのクレスト以外のところを見てください。フーバーダムは上のほうに何かポチポ

ち出っ張りがありますね。写真が少し歪んでいますが、あまり大きくてこういう写真になってしまったんでしょう。

このフーバーダムのこれに私はショックを受けたんです。これです。これがエレベーターシャフトです。これはどうってことない、どこにでもあります。これにショックを受けました。そこに張り出しになっているんですが、そこへ行って下をのぞいています。アメリカの観光する案内人に、「なぜ、こんなところにこの張り出しを作ったのか」、本当に「なんで？」と聞きました。すると、アメリカ人はニヤッと笑って、「来るアメリカ人を怖がらしたいんだ」、本当にこう言ったんです。来る観光客を脅かしてやりたい。

アーチダムを作るとき、型枠をセットして行って、中にコンクリートを詰めてダムを作っていくんですが、ここが一番厄介なところ。一番先端で、型枠を作らないとこれはできませんから、このダムを作る一番大事な先端のところで、ややこしい型枠を作って、型枠を丁寧に打っていく、そんな遊びをやっているんです。目的は何もなしです。要は、訪れる国民を驚かしてやりたいから、そういう発想で作ったんです。

いや、もう、その考え方に私は心から驚かされました。人生ではいろいろ驚いたことはありますが、このときのショックは非常に大きかったです。

エレベーターシャフトは何本もありますね。1本はもちろん管理用ですが、観光用です。これが発電所の中です。左のほうで人々が見ていますね。中をずっと歩けるんです。そして、帽子をかぶったOBたちが案内をします。もちろん、ダム湖にも行けます。私はこれを12月に見ました。帰ってきてすぐ「お前は宮ヶ瀬に行け」と言われて、そして宮ヶ瀬の前の所長から「お前はダムの設計をしろ、ダムの発注をしろ」ということで任務を受けたわけです。

今から、皆さんがよく知っている宮ヶ瀬ダムのインクライン、斜路、湖の遊覧船、そしてA代替地、B代替地、水の郷といったあの地域の観光開発、これをダム設計の中に入れてしまったんです。ダム設計をするときに、これはダムの施工図で、ちょっと分かりにくいでしょうけど、インクラインなど、このようにバッチャープラントというコンクリートを練る装置があるんです。コンクリートを練ったら、下のコンクリートを打つところに持っていけないといけません。どうやって持っていくのか。いろいろと持っていく方はあります。ケーブルクレーンで行ったり。

今回のやり方は、インクラインを使って、エレベーターの台車にダンプをそのまま載せてしまったんです。それでずっと下ろすんです。ダンプが下りたら、ずっとそのまま走っ

ていくんです。それだとえらい電気料がかかるんじゃないかという、かかりません。こっちに「やじろべえ」になっていて、その「やじろべえ」のバランスだけで下りたりしますから、この「やじろべえ」を作ることによって、このインクラインの動力が極めて安く済みます。そのときに、なぜこんなことをしたかと言うと、これを将来観光用のインクラインにしたかったんです。そして、これは将来、湖へ行く斜路にしたかった。

これが当時の打設しているところですね。当時所長だった鹿島の田代さんですね。当時は格好いいですね。そしてこれが、宮ヶ瀬のインクラインで、どんどんダムが建ち上がってきて、ダムができたあとには現在のこのインクラインがある。そして、船へアクセスできる斜路がある。こういうのを、ダムができたあとに作るのはえらいことなんです。ダムができてしまった後に、こういうインクラインを作るなんて、もう不可能ですね。予算的にも考え方的にも。でも、工事中にできてしまった、だから使おうというのは別に誰も反対しないわけです。

A 代替地、B 代替地と言っていました、その中間のところを土捨場にしてダムから出た掘削土を持ってきて、この周辺を浅いプールにした。これはよく出てくる写真ですが、左のほう、皆さん知っていますよね、このダムの中に入れるということ。監査廊、ギャラリー。ただで入れるんです。

このギャラリーの中を自由に行き来できて、エレベーターシャフトでダムの天端まで上がれるんです。そして、ダムの職員たちも、お客さんが来るとご案内している。まったくフーバーダムと同じ。僕が考えたイメージができました。

これが当時の宮ヶ瀬ダムの水没地の方々の場所です。これが今、湖で貯まっていますが、この貯まったこの地点に、ここは深いですから、ダムで出てきた土砂を入れて運んできて、ここで遊べるような、いろいろなさまざまな工夫をして、今、カヌーとかができるということなんです。

後ほど時間があれば、ご質問にお答えしますので、何かあればどうぞ。

水没する前に観光をやっていた方々は同じように代替地に行って観光をしようということで、こういう姿になっています。子どもたちが遊ぶ水辺ができています。そしてクリスマスもやっている。

このクリスマスツリーですが、今はわずか 2 本、これしか残っていません。なぜ、これできたか。これも本当の話です。あるとき私は、津久井のほうに用事があったのでずっと歩いて見ていたら、もみの木を一生懸命切っているんですよ。こういうのを何本も。

「何をやっているんだ」とその場から事務所に電話して、「工事課長を出せ」。工事課長が出て「何ですか」。「なんであれを切ってるんだ。切っちゃ駄目だ」。「いやいや、補償しちゃいましたから」と。「え？」。

補償は、伐採補償なんです。分かりますか。伐採する費用も含めて補償してしまったのです。伐採しなければその費用がもうかってしまうからそんなことできません。「冗談じゃない。あれは残しておけ。伐採費用なんかもう無視していい」。今はもう時効だから言えるんですけどね。

「ともかく残せ」「なんでですか」。「一番いいところにあるもみの木だろう。何か使えるぞ」というので、そこで工事が止まったんです。これは本当の話です。それであの木だけが残ったんです。

そのあと宮ヶ瀬の方々と相談して、「あそこでクリスマスツリーをやらないか」と言うのと、「冗談じゃない。俺たちの町は神道の町だ。昔から神々の町だ。クリスマスツリーなんかとんでもない」という意見もあったのですが、始まってしまったら、皆、喜んでクリスマスをやっています。これが宮ヶ瀬の一つの大きな、運がよかったというようなことだと思います。

この宮ヶ瀬ダムの歩道橋もすごいですよね。子どもたちが勉強するダムになっています。

日経新聞で、観光としての宮ヶ瀬ダムは今ナンバーワンになり、黒四（注 関西電力の黒部川第4発電所ダム）を抜きました。なぜ宮ヶ瀬ダムが日本一になったのか。これは、僕たちのダムの設計で、歩道橋に行く、監査廊を歩ける、インクラインがあるということだけではなくて、実は人の力なんです。どんな設計をして、どんな装置を作っても、僕ははっきり言いますが、国交省のダム管理事務所の人間がやっていたら発展しません。ダム管理事務所の人間の役目は、ダムを安全に守ることですから、このダムに人々を呼んで楽しくしようという任務ではないんです。

どうしても神奈川県を協力を得て、このダム周辺をにぎやかにする、人々が集まれるような組織が必要だった。神奈川県が作りますから財団ですね。最初はもっと違った名前だったのですが、でも、だんだん「宮ヶ瀬ダム周辺振興財団」となっていました。

でも、なぜこんなことができたのか。神奈川県の中でも、ものすごい反対があったんです。これも時効だから言いますが、「なぜ宮ヶ瀬だけやるんだ」。「三保だって城山・相模だってあるじゃないか」。「もし城山・相模、三保ダムの周辺の人からクレームがあったらどうするんだ」。「宮ヶ瀬ダムだけを特別扱いできない」、という意見がありました。

それはそうでしょう。県の公平な行政のときには、そういう意見が当然出てきます。でも、やらなきゃ駄目だと強力に支えてくれた人がいました。これが、陌間（はざま）さんです。私が来たときには、神奈川県内広域水道企業団の企業長でした。もともと神奈川県副知事をなさっています。この方に私がお願いして、宮ヶ瀬ダム周辺地域整備振興協議会の会長になっていただきました。このときはまだ任意法人で、オフィスも私どもの事務所のあるボーリング倉庫に1カ月ぐらいいました。陌間さん、ここにちゃんと週に1回か2回、来てくれたんです。いやいや、すごい方でした。この方の神奈川県内の説得によって、神奈川県最後の水瓶だから、これは皆で協力して支えなきゃ駄目だということで振興財団ができ、だから今このようなイベント、今日みたいなイベントができるんです。国交省だったらできません。国交省だけで管理をしていたら、こういう広がったネットワークはできないんです。見事に陌間さんと私のねらいが当たった。約20年前の思いが、きちんとはまったという思いがしております。

そのとき、最終的にはもっと陌間さんを支えたのは長洲さんです。長洲さんは、当時、革新知事だと言われていたのですが、宮ヶ瀬ダムは神奈川県700万県民の宝だとあちこちでスピーチなさっていました。

当時、もうすでに市民運動側がいらっしやいまして、ダムを作るのは環境破壊だという動きはありました。でも、長洲さんは、「神奈川県は水がないんだ」ということを本当に身にしみて知っていた方なんですね。東京と静岡に挟まれて、水に関して誰も助けてくれない神奈川ということ、この長洲さんと陌間さん、当時の幹部の方は身にしみて知っていたのです。いろいろな昔の話、川崎からもらい水をしたことなどを知っていたから、これはやらなければいけない、というようなことで、当時の皆さん方、幹部の一貫した支援によって珍しい、直轄で唯一と行っていいほどのこのような振興財団ができて、私の計画したダムの観光ルートが活躍できているというのが現状でございます。

以上、私の当時の秘話というより、経過を説明させていただきました。

ご清聴、ありがとうございました。（拍手）

司会 ありがとうございました。

それでは、ここで、ご質問がございましたらお受けしたいと思います。先生にご質問がありましたら、どうぞ手を挙げてください。どうぞ、マイクをお持ちします。ご質問、ありませんか。この機会ですから、ぜひ竹村先生にこんなことを聞いておきたいという方、

いらっしゃいませんか。

会場 私は、宮ヶ瀬の落合です。先生の顔をよく覚えていますよ。私は他のダムもいろいろなところを見させていただきましたが、三保ダムは現状では観光は栄えておりません。でも、宮ヶ瀬は振興財団と私ども地元と連携を取りながら、今、一生懸命やっているわけですが、先ほどのツリーも、私が、今度、実行委員長をやりますが、もう今年は 32 回目です。もう 30 年。先生に今日お会いして、お元気で本当に感激しました。

先生の本も読みましたが、そういう中で、水力発電の問題についても先生は非常に大きく取り上げていますので、これとは離れるかもしれませんが、この点について先生のお考えをお聞かせ願えればと思います。

竹村 落合さんも、水没者の方の代表として非常に私を支えてくれた方で、酒も飲みましたし、本当に楽しい時代でした。

水力発電ですが、宮ヶ瀬ダムは、直轄ダムでは日本では唯一ではないでしょうか、2 つの発電所です。本体と小さいサブダム。本体では、宮ヶ瀬ダムからドーンと大きな水を流します。流した水で発電します。約 22 トンという大きな水を流して発電して、下流の小さいダムに貯めるんです。その小さいダムに貯めたものを、もう一度、5 トンぐらい、24 時間かけて流します。これは何かと言うと、ピーク発電なんです。22 トンのピークを発電するのは 3 時間か 4 時間です。ドーンと流し、一種の洪水です。それで目一杯発電してパッと止めてしまいます。大きな発電をした水が下に流れてはまずいので、その小さいダム、石小屋ダムに一度貯めて、水を一度おとなしくして、その石小屋から今度は 5 トンという小さな水で小さな発電。それは 1200kw の発電をします。つまり、本体のピーク発電と、下流の安定した小さな発電をしている。日本の直轄ダムでは僕は知りません。国土交通省出身の方がいらっしゃると思いますが、知っていますか。

会場 ないですね。

竹村 今回、私は『水力発電が日本を救う』という本の中で、全国にこういう大きなダムはある、その下に小さいダムを皆作れ。本ダムでドーンと、電力が必要なときは、1 日だいたいピークが立つのは 3 時間ぐらいですから、そのときに助けてやって、そして

平準化していけばいいんじゃないかと。そうすると化石エネルギーも助かるし、電力会社の運用も助かるというようなことで、あの本の中にピーク発電ができるということをかなり力強く書いたのが、宮ヶ瀬ダムでの実績があったからです。

会場 どうもありがとうございました。

司会 他にご質問がありましたら、どうぞ。

竹村 監査廊についてですが、将来、一般の人を監査廊に通すと言ったときには、私は僕の部下に本省や本局には言うなど。今、この状況では本省の連中に言ったって絶対に分からない。一般の人を入れるなんて言ったら、冗談じゃない、もし爆薬でも入れられたらどうするんだ、という話です。

話は変わりますが、爆薬なんて全然関係ないです。ダムはいくら爆薬をかけても壊れません。発破というのは、ボウリングをずっとして穴を掘り、その中に火薬を入れて、その上に砂袋を入れて、それでポンとやる。そのポンという力がコンクリートに伝わって、クラックとなる。ポンとやって空気が行くだけで、あんなものは関係ないです。

知らない人は、「何か危ないことをやっているのではないか」と。全然危なくないです。そんな心配はありません。

それはともかくとして、当時の、昭和の末の年代のときには、人々を入れるなんていうとは口が裂けても絶対に言うなど。ダム計画全体がおかしいじゃないかと言われてしまいますから。だから、黙っていようと。ダムができれば、それまでふたをしておこう、扉を作っておけと。時代が来たら後輩たちが開けてくれるだろうから、開けられるような装置にしておこうというようなこと、これは本当の話です。部下たちには言うなよと。でも、20年後30年後にそういう時代が来たら後輩たちがふたを開けてくれるだろう。そして、お客さん、一般の日本の国民たちが喜んでくれるだろうというようなことで、あの監査廊にエレベーターを通して周遊できるルートを作った。

そういう意味では、役人ですから、思い切ったことをしているようでも、配慮しながらやっていたのです。

司会 知りませんでした。実は私は愛川町出身なんですけれども、この間行ってびっ

くりしました。こんなところに行ける、見学できるということに驚きました。

さて、ご質問はもうよろしいでしょうか。では、竹村先生の基調講演はここまでとさせていただきます。先生にもう一度大きな拍手をお送りください。（拍手）

それでは、これよりしばらくコーヒードリンクの時間を取らせていただきます。コーヒードリンクの後にパネルディスカッションに入ります。しばらくコーヒードリンクでお楽しみください。会場はこの部屋の隣、アンシャンテという部屋です。出てすぐ左手です。また、会場の外には宮ヶ瀬湖周辺地域の PR コーナーも設けておりますので、ご自由にパンフレットなどをお持ち帰りください。

なお、約 20 分のコーヒードリンクになると思います。このあと、定刻 3 時にはこちらでパネルディスカッションを開始いたしますので、それまでにどうぞお集まりください。それではしばらくコーヒードリンクでお楽しみください。

（コーヒードリンク）

司会 さて、皆様、コーヒードリンクで少しお寛ぎいただけましたでしょうか。それでは、ただ今より、第 2 部パネルディスカッションを始めさせていただきます。まず、パネリストのご紹介をさせていただきます。向かって右側よりパネリストお一人目は、NPO 法人きよかわアウトドアスポーツクラブ理事長、山田一夫様です。

山田 よろしくお祈いします。（拍手）

司会 きよかわアウトドアスポーツクラブは、宮ヶ瀬湖を活動エリアに、カヌー、ノルディックウォーキングなどのアウトドアを行っている総合型地域スポーツクラブでございます。

続きまして、ダムライターで、ダム写真家でいらっしゃる萩原雅紀様です。

萩原 よろしくお祈いします。（拍手）

司会 萩原様は、ダムライター、写真家として、ダムツアーの主催、写真集の出版、トークショーへの出演と、「ダム好き」第一人者として活動されていらっしゃいます。
続きまして、東京農業大学博士前期課程2年、亀村聡様です。

亀村 よろしくお願ひいたします。（拍手）

司会 宮ヶ瀬湖周辺地域で自然観察指導や自然体験イベントのスタッフで参加していらっしゃいます。現在でも自然の調査研究、写真撮影などの活動をしていらっしゃいます。
そして、続きまして、神奈川県政策局政策部土地水資源対策課長、田邊親司様です。

田邊 田邊です。よろしくお願ひします。（拍手）

司会 土地水資源対策課は、やまなみ五湖水源地域交流の里づくりなど、神奈川県における水源地域の活性化や水源地域対策に取り組んでいらっしゃいます。

最後に、日本版 DMO を目指す、公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団から、宮崎仁男常務理事です。

宮崎 どうぞよろしくお願ひします。（拍手）

司会 以上5名の方にパネリストとしてご登壇いただいております。そして、コーディネーターは、先ほどのご講演から引き続き、竹村先生にお願ひいたします。

ここからの進行は、コーディネーターの竹村先生にお願ひいたします。よろしくお願ひいたします。

竹村 よろしくお願ひします。では、今からパネルを行います。最初に、パネリストたちの自己紹介を兼ね、それぞれの方がどういう役割をして、どういうことをしているのかをご紹介してもらいます。

最初に財団の宮崎さん、今日のテーマの DMO の件もあり、宮崎さんから自己紹介して今日のイベントの意味を言っていただき、次に県の田邊課長から神奈川県としてどんな取

り組みをしているのか、大局的な視座からお話をいただき、次に山田さん。地元のさまざまな活動をしていらっしゃいますので、山田さんに宮ヶ瀬の活動を。そして萩原さんにはダムに興味のある専門家としてのお話。そして最後に亀村さん、並んだ順序と少し入れ替えますが、そのような形で自己紹介をしていただき進めたいと思います。よろしくお願ひします。では、宮崎さん、お願ひします。

宮崎 私どもの財団がこれまで行ってきた宮ヶ瀬湖周辺地域での取り組み状況、そして日本版 DMO 推進に向けてのご紹介をさせていただきます。よろしくお願ひします。

まず、宮ヶ瀬湖周辺地域の 3 拠点整備の状況です。宮ヶ瀬ダムの建設に伴い、清川村、愛川町、旧津久井町の相模原市、これら 3 つの拠点が整備されました。平成 4 年、私ども、宮ヶ瀬ダム周辺振興財団が設立され、以来、宮ヶ瀬湖周辺地域の観光地域づくりのかじ取り役を担ってきています。

財団の歴史、設立目的です。ダムの建設に合わせ平成 4 年に財団が設立後、宮ヶ瀬湖周辺の整備された国や県の施設の管理・運営を受託するとともに、各種イベント等を開催してまいりました。財団の設立目的は、県民の貴重な水源地として環境保全の理解を求めていくこと。また、宮ヶ瀬湖周辺地域の活性化であり、今後も将来にわたってこうした取り組みを進めてまいる所存です。

水源環境の理解促進です。ここからは財団での具体的な取組状況を説明します。下の写真は左から、植物、動物・昆虫、水源等に触れる自然体験。宮ヶ瀬湖でのカヌー体験と自然観察、右の写真は宮ヶ瀬湖の象徴「もみの木」を都市部に展示して、子どもたちの相互メッセージ交換の様子を示しています。こうした取り組みにより、宮ヶ瀬湖周辺の貴重な水源環境の理解促進を図っています。

もう一つの大きな柱である地域活性化の推進です。下の写真左から、季節ごとに開催している大規模イベントである「みやがせフェスタ」。郷土伝統工芸等の地域資源を活用した体験イベント。右の写真は本格的なスポーツイベントである「24 時間リレーマラソン」の様子を示しています。四季折々、年間約 400 を超えるイベントを開催し、年間 150 万人以上の来訪者を集めています。

次は乗り物運行です。下の写真では機関車型の観光乗り物「ロードトレイン」、ダム建設時の工事車両を運搬した設備を活用したケーブルカーである「インクライン」、湖の特性を生かして 3 拠点を結ぶ「遊覧船」の様子を示しています。こうした観光地仕様の各

種乗り物の運行を行い、来訪者の利便性の確保、あるいは楽しみの提供による地域の魅力アップ、また、料金収入による財団運営の財源の確保を図っています。

宮ヶ瀬湖周辺を取り巻く環境の変化です。首都圏最大級の宮ヶ瀬湖は都心から約 50 から 60km に位置しています。一つには、圏央道の開通による広域圏からの来訪者需要の増です。2 つ目は、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴うカヌー等スポーツ熱の高まりです。3 つ目は、宮ヶ瀬湖近くにリニア中央新幹線の関東車両基地整備が計画されており、最先端科学技術拠点となる可能性があります。観光資源となることが期待されています。これにより、最先端の科学技術と自然豊かな湖のコラボエリアが誕生していくことになります。

財団からの事業提案・新たな動きです。財団では、こうした周辺環境の変化を捉えて、宮ヶ瀬湖周辺を新たな観光の核に育てる 3 ステップを提案しています。ステップ 1 は、楽しめる環境づくりや総合案内など、ワンストップ機能の強化です。ステップ 2 は、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催を受けた「カヌーの宮ヶ瀬」やマラソン、山岳トレイルなどのスポーツ熱の高まりへの対応です。ステップ 3 は、リニア中央新幹線の関東車両基地整備との連携による最先端科学技術拠点への対応です。

こうした中、国での新たな動きとして、日本版 DMO 候補法人の登録制度が開始され、当財団の取り組みとも一致することから、日本版 DMO を目指すこととしたものです。日本版 DMO 法人となるとどのようなメリットがあるかですが、財団では 5 月 12 日に候補法人としての登録がされました。2020 年の正式登録を目指しています。

日本版 DMO となるメリットを 4 点で整理しています。1 つ目は、観光地として、宮ヶ瀬湖周辺地域を全国に PR する好機ということです。昨年、宮ヶ瀬ダムは新聞社のダムランキングで黒部ダムを抑えて全国第 1 位となっています。2 つ目は、地方創生交付金等を活用した事業実施が可能となります。この取り組みについては後ほど説明をさせていただきます。3 つ目は、地域における情報交換や協調のネットワーク強化です。財団では、市町村や交通事業者など関係団体から構成される自治会や評議委員会、利用者団体との交流会等を開催していますが、DMO を契機に一層地域におけるネットワークの強化を図ってまいりたいと考えています。4 つ目は、各市町村の行政境にまたがる宮ヶ瀬湖周辺地域を一つのマネジメントエリアとして観光地域づくりを目指すことです。宮ヶ瀬湖をキーに周辺地域を一つのマネジメントエリアとして環境地域づくりを進めるという新しい発想に基づいた事業展開の可能性が広がってまいります。

次はエリア設定、マーケティング・マネジメントをする区域です。宮ヶ瀬湖周辺地域という厳格な定義はありませんが、宮ヶ瀬湖が所在する市町村、公共交通機関や車でのアクセス、観光・宿泊施設、行政、歴史的なつながり、財団に出捐している自治体などを考慮して、愛川町、清川村は全域を、相模原市は圏央道相模原インターチェンジから宮ヶ瀬湖までのアクセス上にある地域を、厚木市については飯山、七沢温泉を対象としています。

何度も来てもらえるお客様を大切に、です。従来からのリピーター客を大切にするという観点から、第1ターゲットは車を使って訪れてくる首都圏近郊に住む家族連れ客です。第2ターゲットは、カヌー、ボート、マラソンなどスポーツ需要の高まり、病気にならないよう健康体力づくりを進める観点から、スポーツ・レクリエーション愛好家、体力づくり・健康志向派としています。第3ターゲットは、日本を訪れる外国人観光客です。

新しくオープンした施設を紹介します。宮ヶ瀬湖畔園地のアスレチックを置いたこども広場、あいかわ公園の「砦遊具」です。宮ヶ瀬湖畔園地に昨年度オープンした「みやがせミーヤ館」です。みやがせミーヤ館は湖畔園地の入り口に位置し、訪れた方にイベントや施設などの周辺状況をワンストップで提供する施設です。「宮ヶ瀬湖カヌー場」では10人乗りで自然観察もできるEボートや、ボートやカヌーが湖に出ていくための浮き桟橋が古くなったので県に新しく整備をしていただきました。また、カヌー場近くの小中沢園地は芝生を張り直し、高齢者の方に人気のある「グランドゴルフな」どができる多目的広場が整備されました。スマホなどの通信が無料でできるよう「Wi-Fiの環境」を整備しています。

平成29年度、今年度の取り組みです。1つ目は「グラススライダー」で、そりに乗って湖に向かって滑り降りる施設です。約8年前に人工芝がはがれてしまい閉鎖されましたが、県が再整備を行うことになりました。自然の中の全長77mの巨大な滑り台として復活することになります。2つ目は、遊覧船を観光地仕様にするリニューアルです。老朽化も進んでいるので、観光地らしく新しく外装などのリニューアルを行います。3つ目は、立ち乗り電動二輪車の「セグウェイ」です。こちらはすでに5台ほど導入して、毎週土日・祝日には園地内をインストラクターとともに一緒に回るツアーを開始しました。4つ目は、湖の中で行われるスポーツを中心とした「レイクスportsフェスティバル」。厚木市内で宮ヶ瀬のクリスマスをPRする「宮ヶ瀬クリスマスキャラバン隊」などのイベントです。これらの事業が、地方創生交付金など国や県からの支援を受けて実施されます。

「宮ヶ瀬体力づくりプログラム」です。本格的なスポーツだけでなく、気軽に体力づく

りや趣味として行うスポーツや観光をミックスしたモデルツアーを紹介します。日帰りで宮ヶ瀬湖畔園地や清川村を楽しむコースです。宿泊で宮ヶ瀬湖畔とダムサイトを楽しむコースです。湖畔園地でのスポーツ体験や食事を楽しみ、飯山・七沢温泉に泊まり、翌日観光放流を楽しむといったツアーです。こうしたツアーを実施することにより、訪れた方も楽しみ、また、地域にもお金が落ちています。

KPI、重要業務評価指標です。宮ヶ瀬湖周辺 3 拠点の来訪者数の目標値です。今後、観光を通じた地域活性化等により、来訪者の増を図り、平成 32 年度、2020 年には、171 万人を目指す目標値を設定しています。

多様な関係者の連携・協力が不可欠です。夢を実現していくためには、中心になってまとめ、かじをきっていく船長さんがが必要です。また、多くの人たちの連携や協力が不可欠です。財団では、従前に引き続き、交通事業者、商工業者、NPO 法人、地域の方、また、行政機関など多様な関係者との連携・協力により、取り組みの熟度を高めていくことをポイントとしています。

以上が財団の取り組みについてです。紹介させていただきました。ありがとうございます。

竹村 ありがとうございます。では次に、田邊課長、よろしくをお願いします。

田邊 続いて、神奈川県における取り組みをご説明させていただきます。

はじめに、私ども土地水資源対策課ですが、名前のとおり土地と水という経済活動や県民生活になくはない資源、二大資源について総合的な調整を行っている部署です。土地のほうは本日は直接は関係ないのですが、毎年新聞に土地の価格が発表されますが、地価調査や地価公示、それから、国土利用計画を所管しています。水のほうですが、こちらは今日のテーマとまさに直接関係するところですが、水源地域の活性化等に取り組んでいるところです。

続いて、神奈川県における水資源開発ですが、こちらは先ほど竹村先生からもいろいろお話がありました。神奈川県では急速な人口増加や工業の発展などに伴い、そういった水需要の増加に対応するために水源地域の方々のご理解とご協力をいただきながら水源開発を進め、昭和 22 年に完成した相模ダムをはじめ、4 つのダム湖を誕生させてきました。平成 13 年の宮ヶ瀬ダム完成により、現在県内の上水道の約 8 割がこれらのダムによって

賄われており、県民が必要とする水源が確保されたところです。

こうした先人たちの大変な努力のおかげで、今、神奈川県は渇水のおそれがほとんどないという状況になっています。こういった水源地域の豊かな自然をはじめとするさまざまな資源は、まさに県民全体の財産です。今後はこれらの水源を良質な状態で次の世代にしっかりと引き継いでいかなければならないと考えています。

そこで、神奈川県では、先ほどの 4 つの湖に、道志川上流にある奥相模湖を加えた 5 つの湖を「やまなみ五湖」と呼んでいます。昭和 62 年に「やまなみ五湖ネットワーク構想」を策定して、水源地域の活性化と水源環境の理解促進に取り組んでまいりました。以来、この計画の改定を重ねながら取り組みを継続しており、現在は、平成 28 年に策定した計画に基づいてさまざまな取り組みを進めているところです。

主な取り組みですが、まず、水源地域の活性化では、水源地域の情報発信として「やまなみ五湖 navi」というポータルサイトを運営しています。水源地域の魅力あるスポットやイベントの情報提供、あるいは地域で活動する人々の紹介を行っています。また、地域の特産品をやまなみグッズとして認定して、先ほどのポータルサイトやパンフレット等で販売促進しています。もう一つの柱である水源環境の理解促進では、水源地域である上流域と水を利用している下流域の自治体間、あるいは小学生同士の交流を行ったり、水源地域の観光資源や特産品、伝統芸能などを紹介するキャンペーンを都市部で実施しています。

これらの取り組みは県のほか、地元の市町村や国、地元の観光協会、森林組合などの関係機関で構成する水源地域交流の里づくり推進協議会を中心に進めています。

このように、県では今、5 つのダム湖のある水源地域の活性化等に取り組んでいますが、今日は宮ヶ瀬がテーマですので、次に宮ヶ瀬における取り組みについてご説明します。

宮ヶ瀬ダムの誕生については先ほど、竹村先生からご説明があったので詳しいことは省略しますが、1 点だけ、先生の話と重なるところですが、3 つ目の項目、宮ヶ瀬ダムは「建設事業に合わせて周辺の地域振興が並行して進められた全国で初の画期的なダム建設事業」です。そうしたダム建設に合わせて①宮ヶ瀬湖畔園地、②鳥居原地区、③ダムサイト、あいかわ公園、これら 3 拠点が整備されたところです。

こちらが 3 拠点の場所です。先ほどお話がありましたように、平成 4 年にこうした取り組みを進めるということで、いろいろな関係団体と一緒に財団を設立し、以来、財団に地域づくりのかじ取り役としての機能を担っていただいているところです。

次に、地域再生計画の取り組みですが、今回の財団が DMO として活動していくという

ことがあり、県では宮ヶ瀬湖周辺地域での活性化に向けてさまざまな取り組みを進めていき、そして財団の活動を後押しするという一方で、地域再生計画を策定し、平成 28 年 12 月に国の認定を受けたところです。

同時に、この計画をもとに国から地方創生推進交付金を獲得するなどして、拠点間の周遊性の確保、地域一体となった観光戦略、地域の魅力向上のための施設整備等を行うこととしました。目指す姿としては、宮ヶ瀬湖の豊かな水と周辺にあふれる緑を生かしたテーマパーク、都心から一番近いオアシス宮ヶ瀬としているところです。それぞれの拠点を生かした取り組みを進めていくことにしています。

具体的な事業の内容ですが、平成 28 年度にはこの国の交付金等を活用して「観光資源ニーズ調査」を実施しました。宮ヶ瀬湖周辺に来たことがあるかどうか、誰と来たか、どういう手段で来たかなどを調査したところです。

今年度は、先ほど宮崎常務からもご説明がありましたが、地域ブランド定着のための観光プロモーションとしては財団でさまざまなイベントの実施。このシンポジウムもその一環ですが、そのほかにも遊覧船のリニューアルやアクティビティの充実としてセグウェイを導入したところです。来年度については、まだこれからの予算等の話でありますので詳細はお話しできませんが、こうした取り組みを一層強化して財団の活動を後押ししていきたいと考えています。

最後に、このあともお話があると思いますが、最近、ダムが非常に熱く盛り上がってきているということです。「ダムカード」は、国土交通省が中心となって、大きさや掲載情報などを統一して作っているカードで、表面にダムの写真、裏面にダムの情報が記載されています。実際にそのダムに行かないともらえないということで、マニアの心をくすぐるものです。今、全国に 360 種類以上あると言われています。ダムカレーもブームです。今、宮ヶ瀬でも 2 種類のダムカレーがあります。

こうしたダムカレーなど、ダムの魅力、楽しさを取り上げるテレビ番組も最近は非常に多く放送されていて、ダムが非常に注目されている状況です。県としては、こうした機会を捉えて、宮ヶ瀬をはじめとしたダム湖がある水源地域の活性化をしっかりと進めていきたいと考えています。

私からは以上です。

竹村 ありがとうございます。フロアの方にも後ほど自由に質問やご意見を言ってい

ただきたいので、後ほど、よろしくお願いします。

では、山田さん、プレゼンをよろしくお願いします。

山田 皆さん、こんにちは。きよかわアウトドアスポーツクラブの山田と申します。どうかよろしくお願いします。

私はこの宮ヶ瀬湖ができて、カヌーを中心にいろいろな活動をさせていただいて、先ほど竹村先生や県のお話がありましたが、非常にいい思いをしている者の 1 人ではないかと感じています。

クラブの紹介をします。平成 9 年 3 月に清川村カヌークラブを設立しました。この翌年、平成 10 年に、神奈川県に二巡目の国体、かながわ・ゆめ国体が来て、一つの自治体に一つのスポーツをという県の施策があり、その中でクラブを設立しました。そして平成 15 年 2 月に NPO を取得して、きよかわアウトドアスポーツクラブと名称変更しました。

その後、平成 21 年 3 月に神奈川県の実業スポーツクラブ連絡協議会に加盟しました。これは、国の文科省が総合型スポーツクラブの施策を進めていく中で今後、生涯スポーツをやるにはやはりこういう総合型でやっていったほうがいいだろうといったことがあり、活動しているところです。

現在、会員が約 200 名。5 種目 7 つの活動を展開しており、年間を通じてさまざまなイベントを行いながら、地域に根ざした生涯スポーツクラブとして運営しているところです。

どんな部があるかですが、一つはカヌー部で、カナディアンカヌー、カヤックなどがあります。次がトレッキング部。これは歩くことなんですが、あとで写真が出てきますが川を歩くリバートレッキング、ポールを使って歩くノルディックウォーキング。最近いろいろなところでだいぶはやってきているものです。アウトドアアーチェリーは、宮ヶ瀬ではなかなかできないものですから、場所に苦労しながらアウトドアのアーチェリーをやっています。

4 つ目には、アウトドアクッキング・クラフト部。ダッチオーブンを使った料理などをしたり、小物、クラフトを作ったりするクラブです。そして、今年から宮ヶ瀬にグラウンド・ゴルフができるような多目的な広場ができましたので、グラウンド・ゴルフ部を設立しました。月に 1 回程度使っているのですが、今後増えるのではないかなと。うちのクラブ員も高齢化してきますので、カヌーからグラウンド・ゴルフに入っていく人が多いの

ではないかということです。

また、今、検討中ですが、スポーツボランティア部。東京オリ・パラが 2020 年にあるということで、それに向けて現在、例えば財団の 24 時間マラソンや清川村のやまびこマラソン、あるいは、英語に堪能な会員もいますので、通訳のものも今後は進めていきたいということで現在検討中ですが、スポーツボランティア部を作っていこうと考えています。

これまでの取り組みですが、国や県からの依頼によるカヌーイベントとしてやってきたことですが、森と湖の旬間、やまなみ五湖自遊自感フェア、県教育委員会のスマイルウェーブ、それから県の体育センターのやっている子どもスポーツカヌー体験、ふれあいの村関係がやっているワンウィークキャンプカヌー、あるいは、不登校の子どもたちのために、カヌーに乗せて自信を付けさせようということで、きんたろうキャンプなど。

あるいは、県下の高校・小学校等のカヌー体験ということで、地元の小学校は当然そうなのですが、横浜や横須賀の小学校が現在来ており、今日の時点でのべ 80 団体程度の指導が終わっているところです。そして、県下の公民館、この地元の厚木や茅ヶ崎の公民館、厚木や清川の体育協会など、こういったもののカヌー教室等々を行っています。

また、県下の民間団体のカヌー体験として、子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウトなどの団体が来てやっています。あと、宮ヶ瀬財団からの依頼によるカヌースクールを 8 月、9 月、10 月にかけて、親水池と本湖の両方で、先ほど出てきた E ボートなども含めてやっているところです。

そして、どんな具合かと言うと、年間 80 日の指導、私どものクラブのイベントもありますので、年間 100 日以上、宮ヶ瀬で活動しているということで、3 日に 1 回はうちのクラブ員の誰かが宮ヶ瀬にいるというような状況になっています。先ほども少し出ていましたが、やはりリピーターを増やしていかなくてはいけないということもありますので、クラブイベントを開催することによって宮ヶ瀬へ利用客に来てもらうことが大事ではないかと考えています。

この写真は、先ほど出ました「リバートレッキング」です。ヘルメットを被り、ライフジャケットを着けて、川下から川上へずっと上っていきます。そうすると、この先に困難な場所がいろいろあります。例えば堰堤というのがあり、一人の力ではとても上れない。あえて指示は出しません。すると子どもたちがいろいろ考えるわけです。「僕の肩に乗って」とか。水がザーザー流れる中、肩に乗ったり、上から水を少し止めて支えたりというようなことで、このようなことからチームワークやグループワークトレーニングがこなせ

るんじゃないかということを考えているわけです。

村民は一生に一度はカヌーに乗る、ということで、今、これは花のようになっていますが、地元の宮ヶ瀬小学校や緑小学校の高校長先生のご協力を得て、授業の中でカヌーの体験をやらせていただいています。特に宮ヶ瀬小学校の子どもたちはもう 1 年生のときから 6 年間ずっとカヌーをやっていますので、将来、この中からオリンピック選手が出てくれたらうれしいと思っているのですが、どうでしょうか。このような形でやっています。花のようになっていますが、これになるのがなかなか難しいです。写真を撮るとこうなるのですが、「寄って」とか言って結構時間がかかったものです。

カヌーの良いところは水鳥の視線で眺められるということです。通常、湖は陸の上から写真を撮るわけです。これは虹の大橋ですが、子どもは湖から見上げて写真を撮ることができます。水鳥の視線です。このような状況でのんびりカヌーをやっています。

11 月 23 日には「紅葉最前線カヌー」というイベントもありますので、もしお暇がありましたらうちのホームページから申し込んでいただければ楽しく参加できますので、ぜひおいでください。

最後になりますが、われわれの熱い思いと情熱でやってまいりましたが、だんだん年を取ってまいります。そうすると、こういうものは次に引き継いでいかななくてはいけないということがすごく考えられます。やはり次世代のリーダー養成が必要なんだろうということで、高校生や大学生を中心としてこういう人たちを集めて、カヌーやアウトドアを好きになっていただいて、次に引き継いでいきたいというようなことを考えているところです。以上です。

竹村 ありがとうございます。大変多彩なことをやっていることを理解しました。

次に萩原さん、よろしくお願いします。

萩原 萩原と申します。よろしくお願いします。ダムライター・写真家と名乗っていますが、簡単に自己紹介させていただきますと、普段は全然ダムとは関係ない社員をしています。それと並行してダムライター・写真家の活動をしています。

私の場合はダム好きということで宮ヶ瀬ダムに限ってはいないのですが、ただ、根底が宮ヶ瀬ダムにありますので、その辺を中心に、またこれまで 15 年、20 年弱ぐらいでしょうか、ダムに携わっていろいろ活動してきた取り組みを紹介させていただきたいと思いま

す。

まず、ダムの魅力に目覚めたきっかけです。1999 年ぐらいに、偶然、宮ヶ瀬ダムを真下から見上げました。1999 年ですから完成する直前ぐらいだったと思いますが、あいかわ公園の駐車場に止めて、見上げたら高さ 156 メートルのコンクリートの壁の真下に見えました。ダムを今まで下から見上げた経験がなかったので、その圧倒的な存在感に心を打たれて、これはすごいぞと。

当時、ちょうどインターネットが普及し始めたころで、ダムに関する情報は全然なかったんですね。宮ヶ瀬はこんなにすごい、じゃあほかのダムはどんなダムなんだろうと思って調べたんですが、全然情報がないので、じゃあしょうがない、自分でいろいろダムについて調べようということで、カメラを片手に全国あちこちダムに行くことをやっていました。

それで、その情報を集めてダムサイトというホームページを 2000 年ぐらいに開設して全国のダムの楽しさやカッコよさを紹介しようという活動をしています。

ダムをめぐってみて分かったんですが、いろいろな形があって面白いと思いました。宮ヶ瀬ダムは重力式コンクリートダムとありますが、あと、石を積み上げたロックフィルダムなんていうものもありますし、黒部ダムなどで有名なアーチ式という形もあります。こういういろいろな形があって、ダムは地形や地質によってこういう形式が決まっていったりするので、同じ形のダムは 2 つとないということに気付き、それでお寺やお城などをめぐるようにダムをめぐってみてはどうかと思って全国をめぐっています。

さらに、場所によっては、時期によっては放流も見られます。放流はダムの一番の醍醐味の一つでもあると思います。こんな面白いものを皆で見に行ったらいいんじゃないかと。当時、知り合いにダム魅力を話したりしても、面白そうなんだけど、でも、車がないと行けないよねといった意見も結構あったので、じゃあ、せっかくだったら皆で見に行こうということで、私のホームページを見てくださっている方々に声をかけて、一人で観光バスを借りてダムツアーというのを開催しました。

かかったお金を参加者で頭割りするような形です。このときは群馬県のダムを 3 つ見て回ったんですが、管理所の方の協力でダムの中を見学させていただいたりしてダムツアーを開催しました。これが、募集開始から 1 週間以内で 30 人ぐらい全部埋まってしまうような感じでした。2004 年に初めて開催して 2005 年、2006 年まで同じようにいろいろなルートで開催しました。

このころ、ちょうど観光バスの事故が相次いだこともあり、これは個人でやるにはリスクが高すぎると思い、その後は開催していませんが、今、いろんな旅行会社さんでダムツアーをやっていますので、いい時代になったなと思っています。

ちょうどそのころ、1 通のメールが届きました。そのメールには、「ダムめぐりの DVD を作りませんか」と書いてあり、それから、いろいろがんばって 2006 年 5 月に『ザ・ダム』という DVD を発売しました。これは私と監督と 2 人でいろんなダムにめぐってダムの面白さ、魅力やかっこよさを紹介したようなものですが、いかんせん予算不足というのもあり、頑張っただけなのですが、いまだに Amazon では星 1 つしかもらっていません。

重要なのは、ここからです。発売記念のトークライブをやらせていただきました。形としては、今日のこういうような形、もう少しだけた会場ですが、スクリーンにダムの写真を写しながら、「このダムはかっこいいですね」といった話を、高円寺と新宿でやりました。

このときに言った一言があります。これはトークライブをやる前から思っていたんですが、ダムに行ったらもらえるカードがあったらいいんじゃないかと思っていました。そういう話をなんとなく雑談のような感じでさせていただきました。どういう意味かと言うと、われわれダム好き、ダムに行くのだいたいパンフレットをもらってくるんですが、当時、ダムグッズというのは何もなかったのでパンフレットをもらってくるぐらいしかありませんでした。

パンフレットを貰うんですが、パンフレットはダムによってフォーマットが違います。同じ事業者のダムでも全然違う。皆 A4 なんですが、集めてもコレクション欲が満たされないというか、あくまでもパンフレットです。さらに 50、100 のダムに行ってくると、数を集めると A4 サイズとはいえ意外とかさばってきます。また、われわれがダムに行ったときに、このダムの構造ってどうなっているんだろうとか、あの部分は何だろうという質問をしたいと思っても、管理事務所の扉を開けてお仕事中の職員さんに声をかけるのはあまりにも敷居が高い。それで、管理所の職員さんとうまく話せる機会を持ってないものかというのもありました。

また、ダムに行ってみたいけれども、ちょっと行きにくいといった話もあったりして、皆がダムに出かけやすいきっかけになったらいいというものもあり、ダムに行かないともらえないカードがあれば皆ダムに行くんじゃないか、ダムに行く楽しみが増えるんじゃない

かということをお話ししました。

そしたら、そのトークライブの終演後に「ちょっと話を聞きたいんだけど」と声をかけてくださった人がいました。後々聞いてみたら、その方は水資源機構の職員さんでした。その後いろいろあって、およそ 1 年後に国土交通省と水資源機構が全国 111 の施設でダムカードの配付を開始しました。

実は、これは、「ちょっと話を聞きたいんだけど」というところから、いろいろと国土交通省の方にお話を継いでもらったりして、デザインとかもわれわれダム好きの意見を結構取り入れていただいて、どんなデータを載せたらいいかも結構私なども打ち合わせに参加させていただき、ダムカードの配付の一翼を担えたかなと思っています。2017 年 4 月現在でダムカード配付施設は 569 まで増加しています。それから少し時間がたっていますのでもう少し増えていると思います。

このトークライブではもう一つ生まれたものがあります。同じように終演後、「ダムの写真集を作りませんか」と言われました。私がダムをめぐり始めたときから、やっぱりダムの写真集は欲しいとずっと思っていたので、自分で作れるなら、ぜひやらせていただきますという形で、2007 年 2 月に写真集を出版しました。メディアファクトリーという出版社から、今は角川に吸収されましたが、写真集『ダム』です。

非常に好評だったので、翌年『ダム 2』という写真集も出版しました。ちょうど当時「工場萌え」のブームがあったと思いますが、ほぼ同じ時期に出版されていて、土木建築の鑑賞ブームを巻き起こしたのではないかと思います。

ちなみに、新しい写真集『ダムに行こう』が昨年 4 月に学研から出版されました。これは写真集のほかに、ドローンで撮った DVD も付いている大変お買い得なものなので、書店で見かけたらぜひ手に取っていただければと思います。ことしはムック本や、『ダムかるた』を作りました。読み札を読んでダムの写真のカードを取るというものですから、ぜひお正月にでも楽しんでいただければと思います。

これら全てで宮ヶ瀬ダムを、僕が一番好きなので、紹介しています。

トークライブは現在、年に 1 回のペースで継続していて、会場は、よくやっているのは渋谷の駅前、150 人ぐらい入れるライブハウスです。その集大成として 2012 年から「日本ダムアワード」を開催しています。

今日なんかはちょうど台風が来て、全国各地のダムが洪水調節とかやっているんじゃないかと思いますが、「日本ダムアワード」は、その 1 年で印象に残ったダムを讃える会

をダムマニアが勝手に開催したというようなものです。参考までに昨年の「日本ダムアワード」の結果をお知らせしますと、去年は台風がいっぱいきて、特に北海道に甚大な被害が出ました。ただ、ダムによって洪水被害が低減された地域もあります。また、東北地方で結構渇水が激しくて、洪水調節賞とか低水管理賞は北海道のダムや東北の農業用水用のダムが獲得しています。そのほかにもこういった放流賞やイベント賞というような賞を勝手に作って、われわれがプレゼンしてお客さんに投票してもらうというような形で各賞を決めています。

ちなみに宮ヶ瀬ダムは 2012 年に放流賞、印象的な放流をしたというよく分からないあれですが受賞しています。

最近、私の活動としては、JAF の会員の方のお宅に届くかと思うんですが、1200 万部ぐらい発行されていて日本の雑誌では日本一の発行部数と言われている『JAF mate』という JAF の会員誌でダムの連載をしています。これの初回で、宮ヶ瀬ダムの放流を見ようというような記事を書かせていただきました。残念ながらこの連載は終了してしまったのですが、2 年ぐらい連載していました。

また、新潮社がやっているカルチャー講座でダムツアーがあり、その添乗員兼講師をしていますし、国土交通省がダムコレクションというホームページを作ったんですが、そのアドバイザーをさせていただいています。

あと、宮ヶ瀬ダムが好き過ぎて本籍地を宮ヶ瀬ダム管理事務所の住所に移してしまいました。阪神ファンの人が甲子園球場に本籍地を移したりしているという話を聞いて、ダム好きとして何か愛を表現する方法はないかと思ってちょっとやってみました。

というわけで、ダムファンの登場によってダムを取り巻く状況も多少変わったのではないかと。15 年ぐらい前はすごい逆風だったんですが、今の状況はわれわれにとっても夢のような状況だと思っています。

多くのダムを見てきて一番感じるのは、本当の盛り上がりは、地元地域の方々がダムを愛してダム管理事務所と一緒に面白がってダムを観光に使っていくということではないかと思います。われわれがダムに行っても、いくらダムを盛り上げようとしても、地元が盛り上がっていないと観光に行ってもちょっと拍子抜けしてしまう印象があります。ただ、宮ヶ瀬の場合は、やはり周辺振興財団もありますので、その辺の環境がすごく整っているなと思います。その辺が日本一のダムではないかと思います。

最後に参考までに、宮ヶ瀬ダム以外で、私が今まで見てきた中でダム観光が面白い盛り

上げ方をしているところをいくつかご紹介します。

以前、スイスにダムを見に行ったことがあるんですが、そこではダムの堤体の下と上を結ぶロープウェイがあります。宮ヶ瀬はインクラインがありますが、こちらはロープウェイです。ダムの壁にクライミングの手がかりが埋め込まれて、高さが 220m ぐらいのアーチダムなんですけど、そこを登るクライミングをやっているダムがあったり。これもスイスです。

それから、『ゴールデンアイ』という 007 の映画を見たことがある方がいらっしゃるかもしれませんが、オープニングでジェームス・ボンドがいきなりダムの上からバンジージャンプをして敵のアジトに潜入するというシーンがあるのですが、まさに同じダムで同じようにバンジージャンプが運営されています。これもスイスのダムです。

これは最近写真で見つけた、オーストリアにある高いアーチダムなんですけど、天端に、下流川に飛び出す展望台が作ってあって、これはまさに展望以外の用途がないという、本当に観光客しか意識していないという施設、こういうものが作られています。

これは日本ですが、最近各地のダムで行われているのが堤体のライトアップです。宮ヶ瀬ダムも今度ナイト放流のときにライトアップされます。こういうライトアップも最近各地のダムで行われています。

最近一番熱いのは、このダムのでっぺんのクレストにある放流です。ダムによって用途は違うんですが、ほとんどのダムでは非常用洪水吐と言って、規格外の洪水が来たときに最終的な放流をするための水門なんですけど、これの動作チェックを、わざと水位の高い時期に行うことで放流を見せるということです。これは川治ダムです。川治ダムも普段が一番でっぺんの水門は使わないのですが、事前にプレスリリースを出してこの日にやりますよというふうにして放流するとお客さんがたくさん来るということで、地元と一緒に盛り上げられるんじゃないかと。川治ダムではないですけど、群馬県の矢木沢ダムなどは同じようなプレスリリースを出したところで 2000 人近い人たちがあの山奥に集まったというようなこともあります。

宮ヶ瀬ダムは、でっぺんに水門がついていないのでこういうコントロールは難しいと思うんですが、ただ、貯水池の使用する図面を見ると、設計上は非洪水期にクレストから越流できるんじゃないかなと思って、サーチャージ水位および常時満水位が同じ場所にありますので、もしかして宮ヶ瀬も、私が見ている限り普段はわざとちょっと下げて運用しているようなのでいろいろ難しいのかもしれないですけど、もしかして、やろうとしたらでき

るんじゃないかと思ったりしています。

というわけで、これからも宮ヶ瀬ダムに注目したいと思います。

ご静聴ありがとうございました。（拍手）

竹村 ありがとうございます。まさかダムカードが、あなたがスタートだったとは、今初めて知りました。

それでは、亀村さん、よろしくお願いします。

亀村 ではお話しさせていただきます。僕は今回目立ったタイトルはないのですが、自己紹介から始めさせていただきます。僕は亀村聡と申します。今は東京農業大学大学院の農学研究科バイオセラピー学専攻に所属しています。本厚木から徒歩で 30 分ぐらいのところにある厚木キャンパスに通っています。専門は野生動物学で、現在は、ざっくり言うと野鳥の生態を研究しています。僕は現在大学院生でして、部活動の方からははずれてしまっているのですが、1 年生からずっと農大動物研究部というちょっとマニアックな部活に所属していました。2015 年、僕が大学 4 年生の時にご縁をいただいて、宮ヶ瀬ビジターセンターでアルバイトをさせていただいていました。僕の趣味は生き物探しと写真撮影で、その目的もあって宮ヶ瀬にはプライベートで行くことが多く、とても縁のある地域です。

今回の主題ですが、僕は学生なので、どちらかと言うと宮ヶ瀬地域を利用するお客さん側としての立場なのですが、そんな僕の宮ヶ瀬との関わりについてです。

一つ目は、先ほど申しました部活動です。大学と宮ヶ瀬、どちらも最寄り駅は本厚木で結構身近な場所であるということで、宮ヶ瀬はよく利用しています。特に早戸川林道という場所が湖畔園地近くにあるのですが、なかなかここは（宮ヶ瀬に来られる）多くの方が認知していない場所ですが、実は知る人ぞ知る探鳥地になっています。探鳥地というのは、簡単に言うと、野鳥観察者が多く訪れるスポットです。普通に平日にこの林道を通っても最低 5、6 人ぐらいの野鳥観察をしている人に出会うスポットです。動物研究部の野鳥好き学生たちはこの林道へ出掛けて野鳥観察をします。例えば、冬であれば一番の目当てはベニマシコです。

僕たちのような動物を研究している学生にとっての宮ヶ瀬の魅力は、森林、湖、溪流など、いろいろな環境があることです。先ほどの林道を歩いていても、森林から水辺までい

いろいろな環境をくまなく見ることができます。野鳥は森、草地、湖、溪流といった環境ごとにいろいろな種類が生息していますが、宮ヶ瀬では宮ヶ瀬湖周辺の林道を歩くだけでも多くの野鳥が観察できるので、野鳥観察者にとってはとても魅力的な場所です。

そういった様々な環境があるので、野鳥以外の生き物もたくさん棲息しています。例えば、なかなか普段見る機会はないと思いますが、意外と身近な林にはムササビが住んでいます。ほかにもモリアオガエルなど。ヘビの写真を大きく載せるのは気が引けたのですが、うちの部活の学生はヘビを見つけるとこうして手に持ってしまう。あるいは、美しいミヤマカラスアゲハのようなチョウも棲息しています。

こういういろいろな希少な生き物が棲息しているということが、宮ヶ瀬と僕たち学生との関わり方を広げています。例えば宮ヶ瀬財団さんの方では生き物の観察イベントなどがされていますが、そちらを行う際、自然観察をする側ではなくて、それを運営する側として僕たち学生がお手伝いをさせていただく機会をいただくこともあります。また、右上のモリアオガエルなどは神奈川県では分布が限られており、分かっていない点が多い生き物です。このような生き物に関して、僕たちのように大学で動物の研究をしている学生が卒業論文の研究題材として注目して研究をさせていただくことなどもあります。

少なくとも僕や僕のまわりの学生を含めてのことですが、自然や生き物好き学生にとっての宮ヶ瀬の魅力をもとめると、プライベートで遊びに行きたい自然観察スポットであり、それに加えて、観察会のようなイベントがあったときにお客さんとして見に行くことも出来、その運営のお手伝いをしませんかとお声かけをいただくことで運営をお手伝いする経験をいただくことも出来、更には研究活動のフィールドとしても利用させていただくことが出来る場所であるということです。これらが、僕たちにとっての宮ヶ瀬の魅力です。

次に、僕と宮ヶ瀬との関わりの 2 番目です。先ほど、みやがせミーヤ館が最近オープンしたというお話がありましたが、その建物は以前、宮ヶ瀬ビジターセンターという建物として運営されていて、当時僕が大学 4 年生のときにこちらでアルバイトをさせていただいていました。

宮ヶ瀬ビジターセンターを簡単に紹介します。宮ヶ瀬の見どころ、ハイキングや登山コースの案内をしていくという役割と、宮ヶ瀬周辺の自然環境、特に動植物とか地質などの解説をしていて、案内所だけではなくて、環境教育的な役割も担っている施設でした。

僕のやらせていただいたアルバイト内容としては、このセンター内ではカウンターでの来館者対応であったり、館内が博物館的な内装にもなっていて、そういった展示物の作成

をしたりさせていただきました。例えば左下は宮ヶ瀬に棲息している野生動物の生態をジオラマや解説板を使って紹介したものです。また、季節ごとの自然の見どころを週替りでどんどん入れ替えて紹介しているコーナーなどを書かせていただくこともありました。

また、クラフト教室をやっていて、これは宮ヶ瀬周辺などに自然分布している樹木などの木の実や自然素材を使った工作でキーホルダーを作るようなイベントでして、その受付・解説などもさせていただきました。また、センターの企画展で写真展等のイベントの運営補助などもやらせていただきました。

宮ヶ瀬ビジターセンターの外では、不定期で周辺の自然情報の収集として、湖畔園地や先ほど名前が出た早戸川林道を歩き回ります。また、山岳情報収集ではビジターセンターのスタッフさんと一緒に山を歩いて、山や林道で見つけた動物や、植物だったらどんな花が開花しているか、紅葉がどのくらい進んでいるかといった情報、それと合わせて登山道の危険箇所や積雪情報など、実際にトレッキングをする方に役立つ情報を現地調査してきます。そちらをホームページや刊行物、館内展示等で情報発信していきます。

僕は、この宮ヶ瀬ビジターセンターでのアルバイトを通して、自然を伝える側の立場と、実際にこの宮ヶ瀬ビジターセンターが集めてきた情報を私がプライベートで生き物を見に行くための情報として有効活用するという利用者側の立場、この両方を経験させていただきました。「取り組み」と言えるか分かりませんが、僕と宮ヶ瀬との関わりについては以上です。

竹村 ありがとうございます。

それぞれの方から大変興味深いお話を聞きまして、心から感謝申し上げます。そういう皆様方のお力でもって宮ヶ瀬はこれほど栄えている、持続的に人々が訪れてやっているということがよく分かりました。行政、組織、フリーの萩原さん、そして学生の亀村さん、そういう方々の？下支えがあることがよく分かりました。ありがとうございました。

自己紹介が終わりましたので、いろいろな方にこれからお聞きしたいと思います。

宮崎さん、この DMO は日本版と言っていますが、世界のネットワークの一環なんですよ。それとも、日本の単独、世界とは縁が切れているんですか。

宮崎 観光庁のホームページなどを見ると、日本版 DMO というのは元々日本にあったものではなく、欧米で盛んに行われた観光産業、観光の地域づくりというものを、日本

の場合では行政が観光の計画などを作り、そのために観光協会などがそういったものに沿って観光事業を運営しているパターンが多いのですが、欧米の場合はこの DMO という法人が、そういった観光行政の中心となって、逆に言うと、行政を動かすような立場だと聞いています。

そういった部分では、観光産業を地域の創生、活性化する成功例が欧米では非常に多いと聞いています。それを日本版にと、そういった政策のようです。

竹村 つまり、今はインターネットの時代だから、DMO のメンバーになると世界中の人たちが DMO に関係する施設を検索して宮ヶ瀬、この地域の DMO を見るということになるのでしょうか。

宮崎 全国的にそういった部分の盛り上がりがあります。この DMO は最終的に 2020 年に 100 ぐらいの DMO を育てるという計画のようですが、その上に、いわゆる世界レベルの DMO をさらにその 100 の中から認定するようなそんな話も聞いています。世界的なというのは、そういった意味ではつながりがあると思います。

竹村 分かりました。

田邊課長、先ほどのご紹介の中で、平成 28 年に観光の資源ニーズ調査をなさったという話ですが、この調査でどんな調査をやったのか、どんなふうな何か気になることがあったのか、ちょっとご紹介できますか。

田邊 昨年度、調査をしました。ニーズ調査のほうは千人ちょっとの方々にインターネット等でアンケートの実施をしました。宮ヶ瀬に行ったことがあるかどうかなど、そういったことを調査したのですが、例えば宮ヶ瀬に来たことがあるかどうかで言うと、県内の居住者は約 4 割でした。ただ、県外になるとそれが 2 割弱まで下がってしまう。あるいは、宮ヶ瀬を知っているかどうかとなると、宮ヶ瀬ダムの認知度ですが、県内在住者は半分ぐらいですが、県外ではその率はかなり下がってしまうということで、やはりまだ県外の方々への周知が足りていないと感じているところです。

竹村 それは認識が中心だったんですね。ありがとうございます。

山田さん、子どもたちのいろいろな活動のご指導、ありがとうございます。その中で、

不登校とか、そういう子どもたちの心を強くするような活動になっているなということを感じています。やっつけてどうですか。自然体験をしている中で子どもたちがどんどん変わっていくということが先ほど少しありましたが、もう少しご紹介ください。

山田 子どもたちが一番変容を見せるのは、初めは水で遊ぶのやカヌーに乗るのはいやだとかすごくいやがるのですが、そこをだましましというわけではないのですが、なんとか乗ってもらいと、そこで結局、カヤックも一人で漕ぐものは自分の力でやらないといけませんよね。放っておかれると、なんとして自分の力で漕がなきゃいけない、戻れないということがありますから、なんとか漕ぎ出すんです。そうすると、そうこうしているうちに、非常に自分の中で自信が生まれるような気がします。

その自信が生まれたのが、最後に来て、「今、よかったね」という褒め言葉がすごく自信につながって、「僕はやればできるんだよ」というようなところにつながっていくんじゃないかという、一つの例ですが、そんな効果があるのではないかと考えています。

竹村 ありがとうございます。大変興味深い活動だと思っています。
萩原さん、実際、住民票を移すとどうなるんですか。

萩原 住民票ではなくて本籍です。

竹村 ああ、本籍でしたか。本籍ならあまり関係ないですね。（笑）
あと、オーストリアのダムの展望台ですが、あれは写真では分からなかったのですが、ずっと張り出しているんですか。

萩原 そうです。何 m ぐらいかは分かりませんが、張り出しています。最近、グラウンドキャニオンにガラス張りのベランダができていたり、中国にもあるようですが、そういうものと同じようなものだと思います。

竹村 あれはガラス張りですか。

萩原 写真で見る限りは、下が、棧のような、格子状になっている感じでした。

竹村 それはすごいですね。

そういう意味で、私は先ほど、フーバーダムを紹介する際にちょっと言葉足らずだったのですが、フーバーダムの張り出しも、あそこまで出て行って下をのぞくことによってゾットするというのを、アメリカのエンジニアたちは、アメリカ国民を楽しませてやろうということで、戦時中、1936年ですから、日本と戦争を始めようというときにやっているわけです。

台風がないということもあるのですが、彼らは勇気があるというか、日本人とずいぶん違うなと感じました。

萩原 僕が宮ヶ瀬ダムのすごくいいところだと思うのは、ダムの真下に降りられるところだと思います。これほど大きなダムで真下から見上げられるダムは意外とありません。黒部ダムも真下までは行けません。そこがすごくいいんじゃないかと思っています。

竹村 なるほどね。ありがとうございます。

亀村さん、皆さんの調査、研究にもここを使っていたらいいということですが、これから継続的にこの宮ヶ瀬ダム湖周辺をフィールドとして、あなたの後輩たちが使っていく可能性はありますか。

亀村 はい、実際にあります。今回紹介しなかったのですが、宮ヶ瀬湖周辺に限らず、清川村の山の中に入って動物の調査をやっている学生がいます。実は、最近教授が入れ替わった関係で、こういった調査が最近盛り上がってきています。大学の研究は、なかなか1年だけでは終わらないので、どんどん代替えをして後輩に調べ残したことを引き継ぐというような形が多いです。一度つながりを持たせていただいた地域では、これからも研究の内容を深め、また広げていくために、今後も利用させていただければとても嬉しいと思っています。

竹村 本当にありがとうございます。定点調査というのはとても大事です。行政がやるとなるとエライコンサルタント料を払ってしまうのですが、学生の研究と連携すると、今あなたがおっしゃったように、ずっと続きますから非常にいいデータが、同じ場所で、

例えば 20 年間同じ調査をしてみて何が変わったかなど、とても大きなデータになりますね。

一人ではできない分野があるかと思いますが、できたら研究室で長期的な、最終ゴールを見つめて、それだけでは終わらないので、トータルとして最終ゴールをそういうことにしよう一つのテーマを与えて継続していただけると本当に助かる、うれしいことだと思います。

亀村 ありがとうございます。

竹村 よろしくお願ひします。

皆様方にお聞きしました。何か、パネラーに対してご質問はありますか。何かありました、ぜひ。どうでしょう。

会場 パネラーの方が発表されたのは、われわれも中身を初めて聞く状況でした。

その中で、できたらこれをミーヤ館あたりで来られた方に見せてあげたらすばらしいのではないかと思いますので、研究をしていただければと思います。

竹村 ミーヤ館でそういう、シンポジウムでもいいですが、宮ヶ瀬に来た子どもたちに説明することはとても大事です。別にアメリカのフーバーダムだけ言うわけではないですが、キャンプをするんですね。夜、ロッジに泊まって寝るんですが、食事を終わってビールでも飲んでいるとレンジャーが馬に乗って来るんですね。なんだろうと思ってクラブハウスに行ってみると、キャンプに来ている人が毛布をやりながらそのレンジャーたちの話を聞くんですが、それがとても面白いんです。いろいろな映像があつたり、動植物の形態がこうなっているということで。

今の亀村さんの話、萩原さんの関係しますが、そうやって、宮ヶ瀬を訪れて来る子どもたちにそういうことをレクチャーするようなチャンスはとても大事だと思います。今のお話のような要望をぜひやっていただけたらと思います。よろしくお願ひします。

ほかに何かございますか。

会場 萩原さんにお聞きします。今、デイリーポータル Z の記事などを読ませていた

だいて財団職員としてすごく面白い記事を書かれていらっしゃって、お話を聞けて光栄です。

この財団としてやっていく中で、萩原さんが思う、宮ヶ瀬ダム周辺に足りていない部分、こういうのがあったらいいなというようなものを、率直にご意見等をおっしゃっていただけたらと思います。

萩原 ありがとうございます。私、今回のこのお話をいただいてからそれについてずっと考えていました。宮ヶ瀬ダムを盛り上げるではないですが、ほかのたくさんのダムの中から宮ヶ瀬ダムの立ち位置を考えて、宮ヶ瀬ダムをどうしたら今後もっともっと盛り上げられるか。考えたんですが、宮ヶ瀬ダムは日本で一番楽しいというか、充実しています。まず本体を、僕はダム好きなので本体のほうばかりに目が行ってしまうのですが、本体をさまざまな角度から見られる。上からも下からも見られる。インクラインやエレベーターに乗って上下行き来できる。ダムの中の通路に入って見学もできる。貯水池のほうで遊ぶ場所もたくさんある。

強いて言えば、本体のあたりにもう少し食べるものがあるといいなというのはありますが、そう考えていくと、逆に、宮ヶ瀬ダムには、私の個人的な意見ですが、もっとダムを目的に。先ほどスライドの中でも言いましたが、お城や神社、お寺などをめぐる人たちがいるように、私はダムにもう少し注目してダムをめぐる人が増えてほしいと思っているので、そういったダムを見て回ると楽しいよというようなことをアピールする牽引役にぜひなっていただきたいです。

宮ヶ瀬ダムは本当にダムの魅力を感じるところとしては本当に文句を付けられない施設がそろっています。そういったダム観光の魅力を PR する、宮ヶ瀬が全国を牽引するような役割を担っていったらいいのではないかと思います。

会場 ありがとうございます。今後、頑張っていこうと思います。

会場 山田さんに少し聞きたいんですが。

申し訳ないんですが、山田さんのことは今日初めて知りました。清川のこのコーナーをやっておられるということですよ。

つまり、一番大事なことは、今は商店街も高齢になってきましたからなかなか難しくな

ってきました。活性化をしなくてはいけない時期に来ています。そういう中で、山田さんのお考えの中で、商店街をどうすれば。3人のパネリストの中でもいろいろな意見があると思うのですが、一言ずつで結構ですから、あの商店街をどうすればいいのか、これをお聞かせ願いたいと思います。

竹村 良い質問ですね。山田さん、お願いします。

山田 実は私どもも結構商店街を使っているんです。お弁当、おにぎりだったりとかいろいろやっているんですが、今、商店街を見ると、例えば土日は開けているけど平日は閉まっているとかいうのが非常に使いにくいですね。確かに、コストとかを考えると今は人件費が高いですからやむを得ないと思うんですが、そういうのが開いてくるともう少しフリーに行きたいところがあるんです。

実は私、考えていることがあります。例えば、バーベキュー場の宮ヶ瀬がありますね。あそこに屋根を付けてしまったらいいと思います。国定公園だから何だとかと、今日は県の方がいらっしゃるの、あれこれ言いませんが、あれは全部、建物を作ったのは県だとか国だとかですから、同じようにあそこになぜ早くバーベキュー場を作らなかったのかと。

そうすると、雨でもバーベキューができると、例えば神奈川県内の高校、必ず新入生でオリエンテーションをやっていて、仲良くなるためにバーベキューが非常にいいんですね。それを宮ヶ瀬で食べさせてカヌーでもやって帰っていくというようなことを商店街と一体になってやったらすごくいいんじゃないかなということを考えています。

こんなことでよろしいでしょうか。

会場 では、常務さんでも理事長でもいいですが、それについてはどうですか。

宮崎 今のバーベキュー場の関係は私ども県から指定管理を受けてあそこを管理する立場なので、あそこに屋根を作ることは検討の余地はないことはないとは思いますが、そういう要望があるということであれば、今日は県の方も来ていらっしゃるの、そういうことは県に聞いたほうがいいかなと思います。

それと、会場から言われたように商店街をどうしようかという話です。私ども今後、DMO をやっていく上で、外からいろいろなお客様を呼んで、観光で地域にお金が落ちる

ようにしようという形を進める上で、やはり来たお客さんが、魅力ある商店があるかとか、受け入れが大丈夫かとか、そういった部分がないとお客さんが来られてもなかなか満足しません。魅力のある商店がないところには人が集まりません。

今後、DMO としてお客さんを呼ぶにもそういった受け入れの環境整備が大事になってきます。その一番の、いわゆるお金が落ちるところ、魅力ある食事をするところは、宮ヶ瀬の水の郷商店街以外にないので、あそこがまさに、もっともつとにぎわいを持っていたきたいというこちらからの要望もあるんですが、組合の中でそういった再建策などのお話があるかもしれませんが、まず同じ方向を向いて皆さんと一緒に、今後こういった形でいこうとか、そういった形ができると。

もう一つは魅力ある、あそこへ行くとおいしいものがあるとか、魅力ある食事だとか、そういったいろいろなものがこれから研究されると、魅力ある食事、それを目指して行くことになると思いますね。そんな形もあると思いますので、そういった形で逆に要望をするような形になりますが、ぜひお願いします。

会場 一番大事なことは、やはり商店街を使っていただくことです。商店街を PR していただかないと。それには私ども商店街も努力しなきゃいけないと思いますが。

これから、そういう中で高齢になっていくと、何回も言うようですが、あそこの地域を盛り上げて。

今回、クリスマスも JTB、そういう大きなところと組んで、これからいろいろなイベントをやっていきますし、いろいろなことを考えています。こういう中で、ここのレンブラントさんからも会長さんをお願いして、12月のクリスマスには宿泊割引券や食事券など、そういうものを。アーバンホテルとは話がついて、そういうものを提供していただきます。そういうことによってお客さんを呼ぶことを考えています。

ぜひ、商店街を活性化していただくことをお願いしたいと思います。

竹村 ありがとうございます。

フロアからもさまざまなご意見が出て、パネラーも四苦八苦となった部分がありますが、時間も限られています。今日のパネルをやって、パネラー参加者の方々、どんなことを感じられたか。

特に、もう質問にも出ましたが、これから宮ヶ瀬ダム周辺だけではなく宮ヶ瀬ダムから

はずれてもいいです、ダム周辺がどんなふうになったらいいかということを含めて、できたら宮ヶ瀬ダムが欲しいですが、将来こんな姿、こんなふうであつたらいいなという夢を語ってもらいたいと思います。

最後のまとめをしたいと思います。順番は、亀村さん、萩原さんと、さっきの逆に行きたいと思います。よろしくお願いします。

亀村 宮ヶ瀬の自然をプライベートで見に行く側と、逆に自然観察会を行う等の運営側の両方を体験した者としての意見ですが、こういう環境教育の場については、自然自体は神奈川県内いろいろなところにあると思うのですが、実際それを学校だとか子どもさんを相手にイベントを行っている場所は意外と限られていると思います。

例えばダムとか観光みたいな情報はテレビなどから入ってくるのですが、地域にどんな自然があるかという情報はテレビでは注目されないで、それを伝えてくれる機関や場はとても大事だと思います。地域の住民が自然環境に関われるようなイベントなどの充実が理想だと思います。また、学生としてはこういったイベントなどに運営側として関わらせていただく機会はものすごく貴重です。こういった自然観察会やビジターセンターでのアルバイトを通して、将来もこうした仕事をしたいと心に決めて就職した学生もいます。貴重な機会をいただける場所が宮ヶ瀬に用意されていることは、この道を目指す学生にとってもすごく理想的なんじゃないかと思います。

宮ヶ瀬と学生との関わり方についてですが、学生が研究などの形で宮ヶ瀬に出入りして自然情報などを集めるという役割として宮ヶ瀬側に何か協力できることもありますし、逆に宮ヶ瀬財団さんから学生にイベント等のお手伝いの機会もいただければお互い win-win の関係を築けるのではないかと思います。こういった関係が今後もより発展していけばとてもうれしいと思っています。

竹村 ありがとうございます。では、萩原さん。

萩原 いろいろなダムでこういう話を伺う機会があります。宮ヶ瀬ダムも、例えば相模原市や愛川町、清川村といろいろな自治体にまたがっていたり、ダム自体は国土交通省が管理して、発電は神奈川県がやっている。いろいろな事業者、自治体が混じっているので、ここの部分はうちができるけどうちはできないとか、ここはあっちの管轄だからとい

うのが結構あると思います。

もちろん宮ヶ瀬ダムの場合は周辺振興財団がありますし、そういう各事業者、自治体の垣根を越えてぜひ一体となってこの地域を。先ほどもそういうお話がありましたが、いろいろなダムでその垣根を越えられないのでこれができないというのが結構あるんです。だから宮ヶ瀬ダムはぜひそれを越えて、皆さんで一体となって宮ヶ瀬ダム、宮ヶ瀬湖を盛り上げる活動をぜひしていただきたいです。

もちろん私たちダム好きもそういうお手伝いができるようであれば喜んで参加させていただきますし、できればいいんじゃないかと思います。

あと、すごく身近なところで言うと、クリスマスのライトアップ、イルミネーションは毎年子どもを連れて参加させていただいていてすごい楽しみにしています。同時に、例えば、せっかくあそこであれだけ盛り上がってきれいなイルミネーションがたくさんあって人がたくさん来ているので、そのときに、ダムもライトアップしたらいいなと思って毎年ダムのほうに行ってみるんですがダムのほうは真っ暗で静まり返っている、それが寂しいです。例えばですが、その機会にタイアップして一緒にダムもライトアップして、ちょっと眺められるというようなものがあつたらダムの PR になるんじゃないかと思いました。以上です。

竹村 ありがとうございます。ダムのライトアップ、まさに管理用発電とか水力発電を自分で持っていますね、ずいぶん違うのでこれからのテーマだと思います。

では山田さん、お願いします。

山田 大事なのは行政と財団法人と利用者がうまくネットワークを作って、お互いに補完し合うような形ができればいいなという感じがします。

私が今考えているのは、東京オリ・パラがあるんですが、オリ・パラは一つのイベントなんです、そういうカヌーの練習会場だとかあるいは国際大会とか、そういうものが持つてこられたらすごくいいなと思います。

ロンドンオリンピックのときにアメリカが金メダルが 47 個で、その次がイギリスでした。3 位が中国。日本はずっとその下でした。きのう、横浜でそんな話がありました。オリンピックで日本はどのくらい金メダルを取るかという話題になったんですが、今までで最高取ればいいんじゃないかというレベルで考えているようです。そういう練習会場

を一つ誘致ができたらいいです。

もう一つは、関西の修学旅行を誘致したらどうかと思っています。宮ヶ瀬へ来ていろいろな体験をして、横浜の中華街でご飯を食べて、そして国会議事堂を見て帰る、こういうようなルートがいいんじゃないかと。

また、もう一つは、神奈川県が今、丹沢湖で高校駅伝をやっています。神奈川の女子駅伝あたりをこの辺に誘致できたらすごいんじゃないかと思っています。アクセスの問題、交通体系の問題、旅館の問題とかいろいろあるんですが、そういうのができたらすごく面白いなという夢を語ってしまいましたが、そんなことを考えています。

竹村 ありがとうございます。そういう夢が大事です。そういう夢を受けて、行政と民間が協力し合っていくと思います。

田邊課長、お願いします。

田邊 いろいろと話が出ていますが、宮ヶ瀬の魅力はやはり都心から非常に近いところにあることで、アクセスが非常にいいと思います。そういったところにああいう圧倒的な迫力の人工物であるダムがあり、そしてまわりには豊かな自然があるということで、こういった2つの魅力を生かしながら、さらにあそこに人が集まってくれる、そういった取り組みをしていきたいと思っています。

先ほど会場からもお話がありましたが、今年度、私どものほうで今、旅行会社等に調査をお願いして、宮ヶ瀬をめぐるモデルルート、旅行商品のモニターツアーを近々にやる予定でいます。そういった形で、宮ヶ瀬湖周辺にはいろいろな地域資源がありますので、そういったものを組み合わせて、そういった連携を図りながら周遊する旅行商品、そういったものを関係者の方々と一緒に作っていければいいなど。

そういった取り組みをしていく中で、神奈川県にはいろんな観光地がありますが、そういう取り組みを通して、神奈川を代表する観光地の一つに今後、していきたいと思っています。

竹村 ありがとうございます。では、最後に宮崎さん。

宮崎 いろいろご意見をいただきました。今後、私ども DMO の正式登録を目指して

いきます。今は登録要件ということで、観光庁からはクリア基準がある程度示されていますので、そういったことがクリアすることが大事です。そして 2020 年の正式登録を目指してこれから活動していきます。

皆さんのお話がありましたように、多様な関係者が垣根を越えて連携しながらという、それが一番大事だろうと思っています。

行政単位とかそういった部分でこの DMO を申請するときにある程度の合意形成は得られたんですが、今後はさらにそれをレベルアップして、そして民間の方も同じ方向を向いてがんばっていこうという、そういった基盤ができないと DMO もうまくいかないと思います。そういった連携を強くこれから働きかけていきたいと思っています。

それと、周辺環境の変化という話をさせてもらいました。先ほどのオリンピック・パラリンピックの話もありました。県のほうでも、県立カヌー場のほうに外国人の事前キャンプの候補地となっていて、視察にも来られています。全員キャンプに来る可能性も今のところ大です。そういったきっかけもあります。また、周辺のリニア中央新幹線の車両基地ができるといった環境の変化もありますので、それらの観光資源を逃さずに情報発信、強力な情報発信力を高めながら宮ヶ瀬を全国に PR できるように、そんな形で進めていきたいと思っています。

ぜひ協力いただければと思います。

竹村 ありがとうございます。

今日は、限られた時間でしたが、宮ヶ瀬ダム周辺の整備そして活性化のためにこれからどうしたらいいかということ、皆さんで知恵を出し合った会になりました。

特に山田さんがやっている活動がこれからも継続していくように心から願います。そして亀村さんなど若い人たちは、継続して研究フィールドとして使っていただけるようにということをお願いします。

前の文部省の時代ですが、文部省は 1 万人以上の小中学生を対象としたアンケートをしていて、面白いデータがあります。その子が自然体験をしたかしたなかったか。月に 1 回ぐらいか 1 年に 1 回ぐらいか。その自然体験をやっているかやっていないかというアンケートと同時に、あなたはちゃんと挨拶をする、または、お年寄りに席を譲ったことがあるかなど、いわゆる社会規範の行動をその子がやっているかなのですが、見事に自然体験している子ほど社会規範が優れています。これが圧倒的な有意差です。

僕たちは小中学生 1 万人以上のアンケートなんてできっこないです。やはり文科省はすごいことするなということ、そのデータがありますので、今日の主催者の誰か、私にメールしてください。そのグラフをお渡しします。今日のパネリスト、そして、どうしても欲しいという方にメールで転送します。文科省のデータですからオープンです。ぜひ皆様方で共有していただきたいと思います。

そういうことも含めて、この宮ヶ瀬ダム周辺が未来の子どもたちにとって、自然豊かで学べる場所、そして自然の恐ろしさも少し味わえるといったことになっていただけると本当にうれしいと思っています。

今日は、限られた時間で、そして雨の中、皆様方、本当によくいらっしゃいました。これで本日のパネルは終わりたいと思います。

ありがとうございました。（拍手）

司会 ありがとうございました。大変熱のこもったお話を伺いました。皆様、もう一度、コーディネーター、パネラーの皆さんに盛大な拍手をお願いいたします。（拍手）

ありがとうございました。

それでは、最後になりましたが、今回のシンポジウムの主催者である神奈川県政策局政策部長、平井和友よりご挨拶をお願いいたします。

よろしくをお願いいたします。

平井 ただ今ご紹介いただきました神奈川県政策部長の平井です。本日は皆様、本当にありがとうございました。

これだけ悪い天気にもかかわらず、これだけの方に入っていただきまして、私、びっくりしています。というのは、今までずっと前を向いていて後ろ側を見ていなかったものから、こんなに席が埋まっているのを知りませんでした。本当にびっくりです。

今日、これだけの天気が悪い中でも、こちらにいらしていただいて、本当に聞きごたえのあるよい話が聞けたのではないかと考えています。こういったよい話をいただきましたコーディネーターの竹村先生、そしてパネリストの皆様、本当に今日はありがとうございました。

ずっと話を拝聴していて、大事な点がいくつかあったと思います。私なりの感想を含めて申し上げます。

まず一つは、こういった非常にいろいろなことを考えたラッキーな状況にある宮ヶ瀬の地域だと思っていますが、こういうことは行政が進めていこうとすると、どうしても、後手後手に回ることが多いです。経験上、こういったことは、あとから、何か後付けでやろうとすると、もう、ほぼうまくいかない。どんなに頑張っても相当苦勞しないとうまくいかないというのが今までの私が見てきた多くの例です。

そういった中で、今もお若くいらっしゃいますが、竹村先生が本当にしっかりとエネルギーに現場で活動されていた、まさにそのときに、先生のある意味独断も含めて、こういった形で将来に向けて種をまいていこうじゃないかという、まさに私が申し上げた後付けではなく先付け、そういった種をまかれた。宮ヶ瀬のダムを作るために使われた施設があとにも役に立つ、こういった思想でダムを作られたことがそもそもの始まりだと思います。

もう 1 点、そういった先付けの仕掛けがあるところに地域振興の要になる財団が同時に生まれたことです。これがもう一つの非常に大きな特徴だと思っています。こういった素地があるところで、本日のパネラーの先生方のお話も伺っていると、例えば山田先生のお話もありました。かながわ夢国体という言葉は、神奈川県職員でもある私も久しぶりに聞いたような気がします、実はその時以来スポーツを中心はずっとこの地で活動を続けていただいた。これもあとから活動しようとする、なかなか根付かないものですが、ここぞというときに活動を先に始めていただいて、今日まで連綿と続けていただいている。こういったことが一つ力になってきているんじゃないかと。これは今後も大きな力になっていくだろうと私は思っています。

それから、ダムライターの萩原先生。実はきのう私、テレビを見ていて、宮ヶ瀬地区もかつて取り上げられたかと思いますが、テレビ東京の「アド街ック天国」という番組です。あれで静岡の寸又峡が取り上げられていて、そこには長島ダムがあります。あれも出ていて、あれもだいぶ大きな立派なダムのようなのですが、あそこに行ったことがあります。ただ、非常に遠い。秘境に行きたいという目的であれば、ああいったところに行くのは非常にいいのですが、行くのにいかんせんすごく時間がかかりますし、手間がかかります。しょっちゅう行けるところではないです。

それから、あそのダムはすごいんですが、あれはやはり下には入れないんでしょうか。

萩原 あそこは入れます。

平井 なるほど。入れなかったらもっとよかったです（笑）。何を言いたいかと言いますと、この宮ヶ瀬ダムは、先ほど来話も出ていますが、都心から非常に近い。晴れた日にはダムの上から横浜のランドマークタワーが見えるようなところです。

そういったところにあるからこそ、ダムの迫力を感じられる、下まで人が入っていきやすい。ダムから下流に行くとすぐに平地になっている。ああいった地形がポイントなのだと思いますが、そういった入りやすさがあるところで、上を見上げると非常に迫力が大きいダムです。これは、われわれもぜひ売りにしていきたいと思っています。

それから亀村先生。本当はこういうところ、にぎやかにしていきたいと思っているのですが、自然観察がご専門、あるいは生態の観察がご専門ということで、あまりにぎやかになってしまうと、その目的にはよくないのかもしれませんが、ですが、一つ一つの活動はにぎやかになる必要はなくても、多種多様な活動ができる。先ほどのスポーツもそうですし、体力づくり、景色を見るだけでもいいですし、来るだけでも気分が変わる。一つ一つの目的で来られる方は多い人数ではないかもしれませんが、非常に多くの目的を持って来られる方、いろんな目的で来られる、そういった場所になる。しかも自然が大事。そういったところを、自然環境の保全も今までずっと進めてきた地区ですから、その基本路線も守りながら、このにぎやかな地域づくりをしていかなければと思っています。

そういったところで私どもの田邊課長。実は国から交付金をたくさんもらってきています。われわれ神奈川県もご多分に漏れず最近はなかなか懐事情が豊かではなく、いろいろなところにお金さえあればいろいろなことをやりたいと思っていますが、なかなか、できません。そんな中で、この宮ヶ瀬地区、ぜひ地域振興を今まで進めてきたところ、アクセラをグッと踏んで、一段ギアチェンジして事を進めていきたい。そういうところの大きな財源になっている国の交付金、取るのに苦労しているところですが、しっかりと取ってきてくれていますので、事業展開もしっかりやりたいと神奈川県としても思っているところです。

最後になりますが、DMO を担っていただいている財団。宮崎常務理事。今日は和田理事長にもお越しいただいています。さっきから DMO という言葉がたくさん出てきています。これは簡単に言うと、観光地域づくりのかじ取り役と言えば分かりやすいと思います。

財団ができた当時はそこまでのことを意識していなかったのですが、まさに財団ができてから二十何年。そこで DMO という新しい概念が出てきて、あとから見てびっくりです。

これも先行して仕組みができていた、そのメリットではないかと思えます。

ここで個々の活動がうまく展開されているし地の利もある。こういった宮ヶ瀬の土地でそういったものをつないでいく、その中心になるものをハブと言いますが、まさに宮ヶ瀬財団が観光・地域づくりの核、ハブとなっていく。それで、うまくいろいろなものを結びつけて連携していく。われわれ官だけではなく民間、そして市民レベル、いろいろな活動を結びつけることによって地域の力が大変高まっていくと思えますし、観光魅力づくりがさらにアップしていくんじゃないかと。

今で完全に十分な形かと言えばまだまだなところもありますが、逆にそれは伸びしろだと思います。さっきお金の話もちよっとしましたが、なかなか苦しい台所事情ではありますが、そこはお金を出せない部分は知恵を皆さんで出し合って、そして一人で考えないで連携して、話し合いをすることで新しい知恵も出てくることもありますし、何にして、もしっかりとした、いい仕掛けができていく地域ですので、そういったことをこれからも伸ばしていけるようにわれわれも考えていきたいと思っています。

そして本日もご来場の皆様、今までもこの地域に対して非常に思いの強い皆様だと思えますが、今後ともこの地域の発展のためにぜひ、思いを一つにしていだければと存じます。

今日は本当にどうもありがとうございました。（拍手）

司会 ありがとうございます。以上をもちまして、日本版 DMO 候補法人登録記念シンポジウムを終了します。長時間にわたりましてご静聴いただき誠にありがとうございました。

なお、最後をお願いします。アンケート用紙が封筒に入っていたと思います。こちらのアンケートにご記入いただきまして、受付に提出する箱を用意しておりますので、受付に提出いただけましたら大変ありがたいです。鉛筆も付けたまま提出していただいて結構です。

では、お忘れ物などございませんよう今一度まわりを確認してお帰りください。

皆様、本日は誠にありがとうございました。（拍手）